

＜ 1 ＞カワウ (*Phalacrocorax carbo*)

【レッドデータブック】

環境省：－

地方版：1 県

表1 地方版レッドデータブック掲載状況

カテゴリ	掲載県	県名
絶滅(EX) または野生絶滅(EW)		
絶滅危惧ⅠA・ⅠB類(CR, EN)		
絶滅危惧Ⅱ類(VU)		
準絶滅危惧(NT)		
情報不足(DD)		
絶滅のおそれのある地域個体群(LP)	1	大分

【生息状況等】 近年急速に分布域を拡大している。

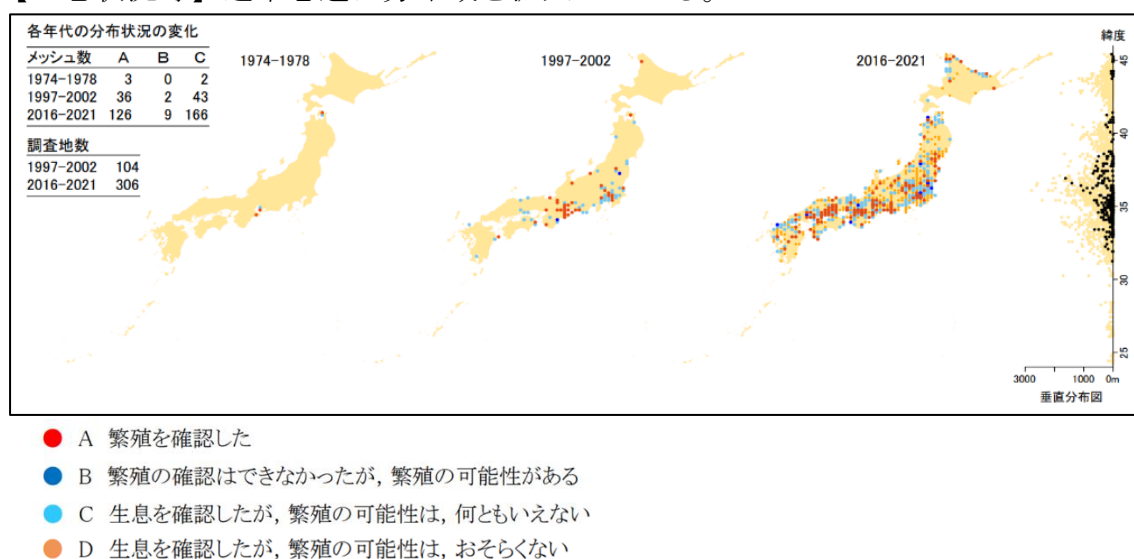


図1 全国鳥類繁殖分布調査報告(2016－2021 年)分布図(カワウ)

【捕獲状況】

狩猟による捕獲は 5,000 羽前後で推移しており、許可による捕獲が大半を占めている。

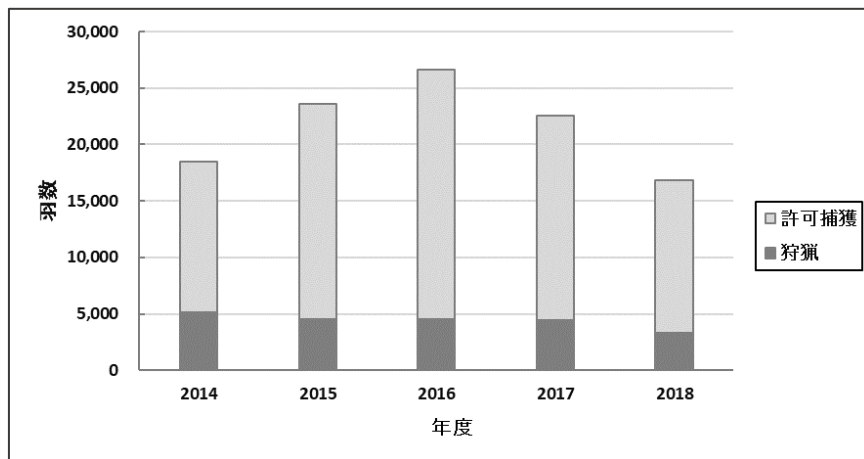


図2 捕獲数の推移(カワウ)

< 2 > ゴイサギ (*Nycticorax nycticorax*)

【レッドデータブック】

環境省：－

地方版：4 都県

表2 地方版レッドデータブック掲載状況

カテゴリ	掲載県	県名
絶滅(EX) または野生絶滅(EW)		
絶滅危惧ⅠA・ⅠB類(CR, EN)		
絶滅危惧Ⅱ類(VU)	1	東京都
準絶滅危惧(NT)	2	滋賀、奈良
情報不足(DD)		
絶滅のおそれのある地域個体群(LP)		
その他県独自カテゴリ	1	静岡（要注目種）

【生息状況等】 分布域は減少傾向にある。

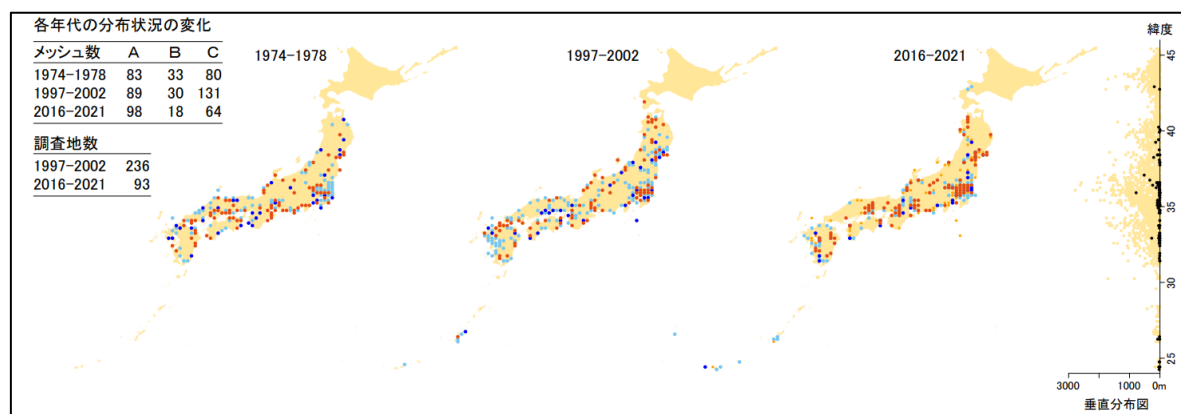


図3 全国鳥類繁殖分布調査報告(2016-2021 年)分布図(ゴイサギ)

【捕獲状況】

2015 年度以降、捕獲数は減少傾向にある。狩猟による捕獲よりも許可による捕獲が大半を占める。

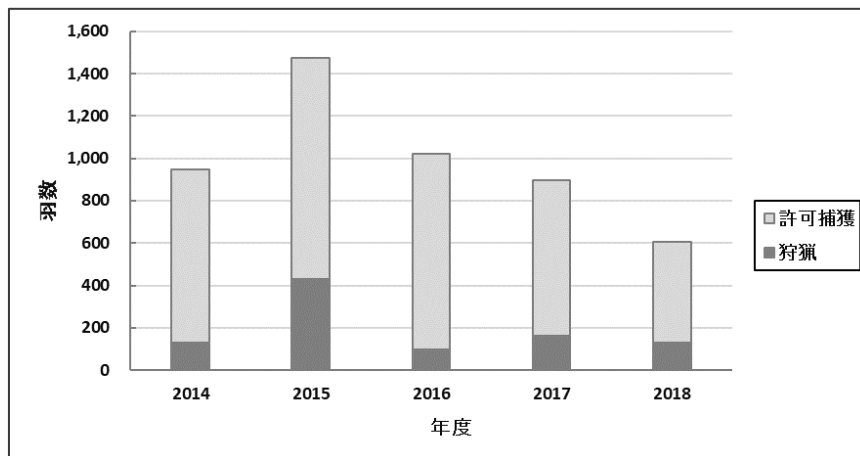


図4 捕獲数の推移(ゴイサギ)

< 3 > マガモ (*Anas platyrhynchos*)

【レッドデータブック】

環境省：－

地方版：－

【生息状況等】 分布域は少し拡大した。

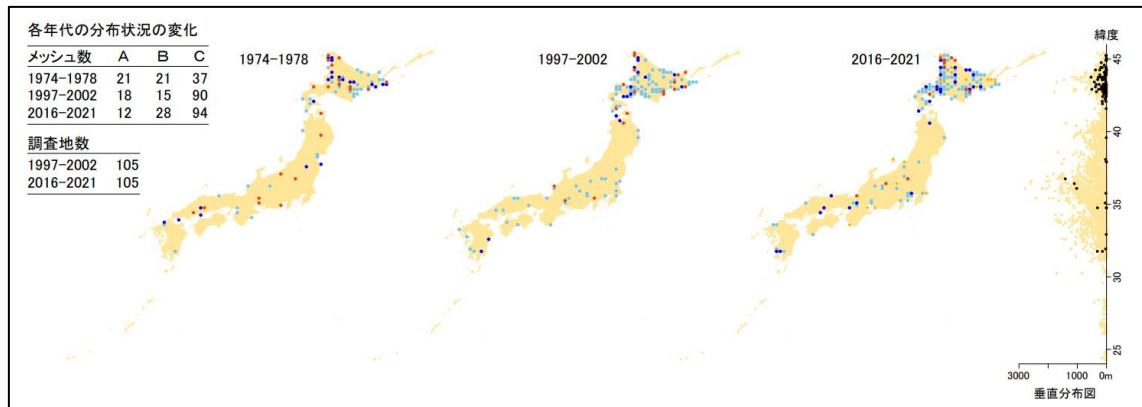


図5 全国鳥類繁殖分布調査報告(2016－2021 年)分布図(マガモ)

【捕獲状況】

ほとんどが狩猟で捕獲されており、70,000～90,000 羽で推移している。

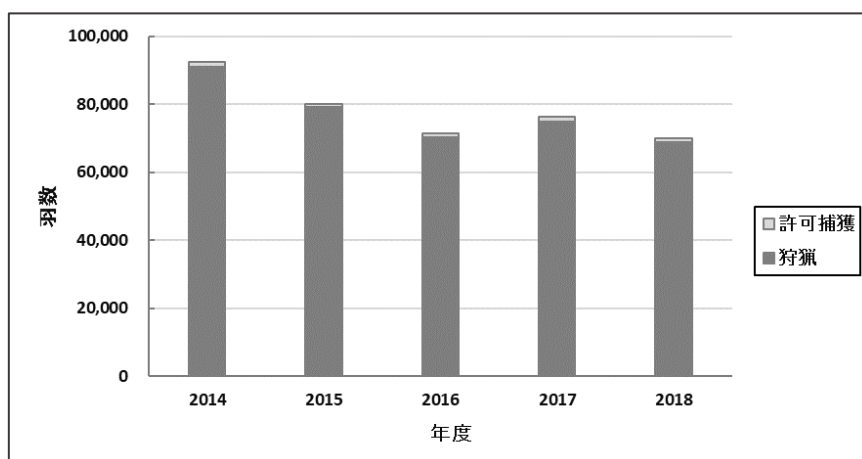


図6 捕獲数の推移(マガモ)

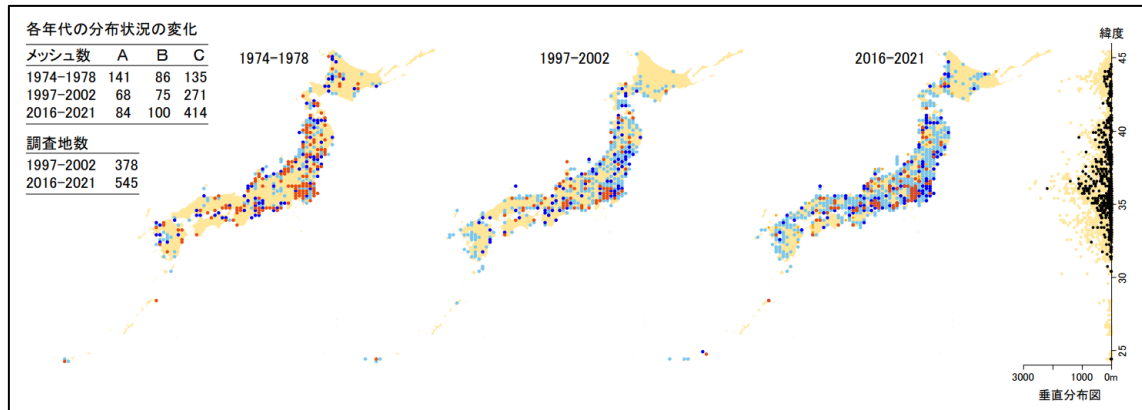
< 4 > カルガモ (*Anas poecilorhyncha*)

【レッドデータブック】

環境省：－

地方版：－

【生息状況等】 分布域は拡大した。



- A 繁殖を確認した
- B 繁殖の確認はできなかったが、繁殖の可能性がある
- C 生息を確認したが、繁殖の可能性は、何ともいえない
- D 生息を確認したが、繁殖の可能性は、おそらくない

図7 全国鳥類繁殖分布調査報告(2016－2021 年)分布図(カルガモ)

【捕獲状況】

ほとんどが狩猟で捕獲されており、70,000 羽前後で推移している。

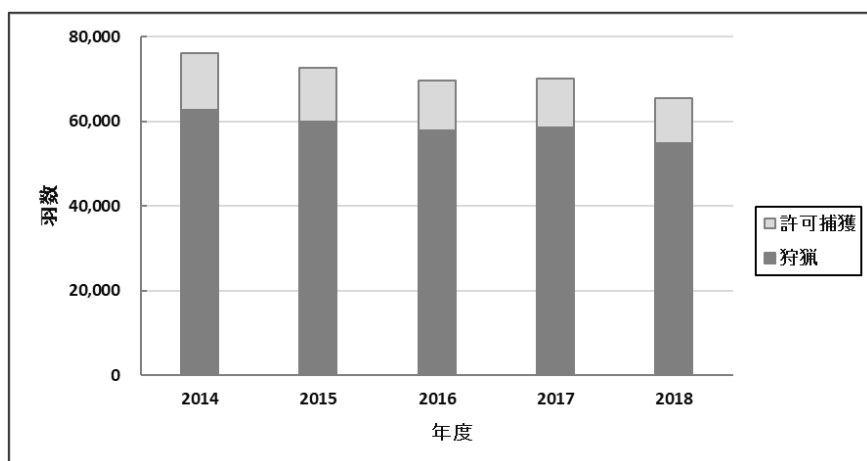


図8 捕獲数の推移(カルガモ)

< 5 > コガモ (*Anas crecca*)

【レッドデータブック】

環境省：－

地方版：－

【生息状況等】冬鳥として渡来する。北海道や本州の一部の山地で少数が繁殖。

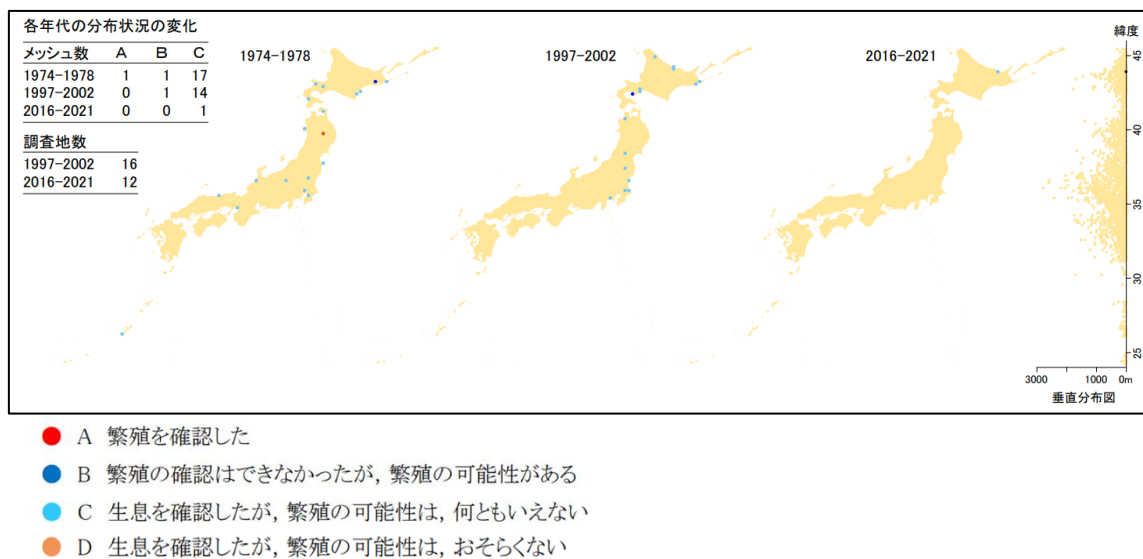


図9 全国鳥類繁殖分布調査報告(2016－2021 年)分布図(コガモ)

【捕獲状況】

ほとんどが狩猟で捕獲されており、25,000 羽前後で推移している。

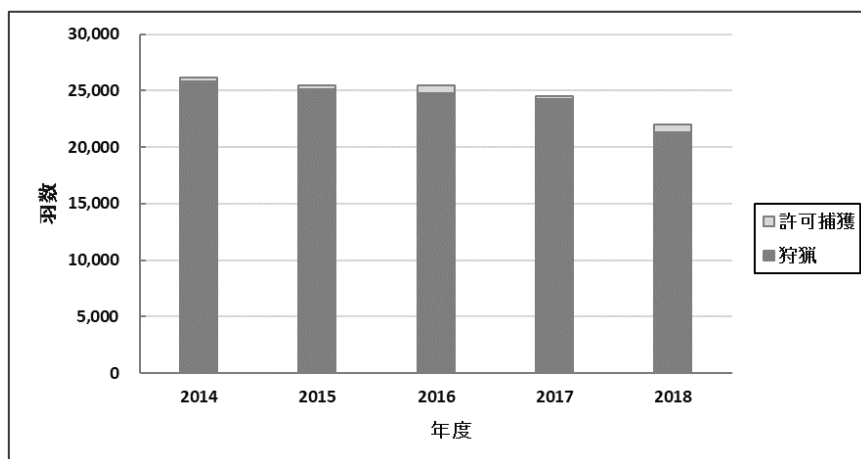


図 10 捕獲数の推移(コガモ)

< 6 > ヨシガモ (*Anas falcate*)

【レッドデータブック】

環境省：－

地方版：14 都県

表3 地方版レッドデータブック掲載状況

カテゴリ	掲載県	県名
絶滅(EX) または野生絶滅(EW)		
絶滅危惧ⅠA・ⅠB類(CR, EN)	2	千葉、東京都
絶滅危惧Ⅱ類(VU)	2	秋田、高知
準絶滅危惧(NT)	9	青森、新潟、富山、福井、滋賀、奈良、鳥取、山口、長崎
情報不足(DD)	1	岩手
絶滅のおそれのある地域個体群(LP)		
その他県独自カテゴリ		

【生息状況等】 冬鳥として渡来し、北海道では少数が繁殖する。

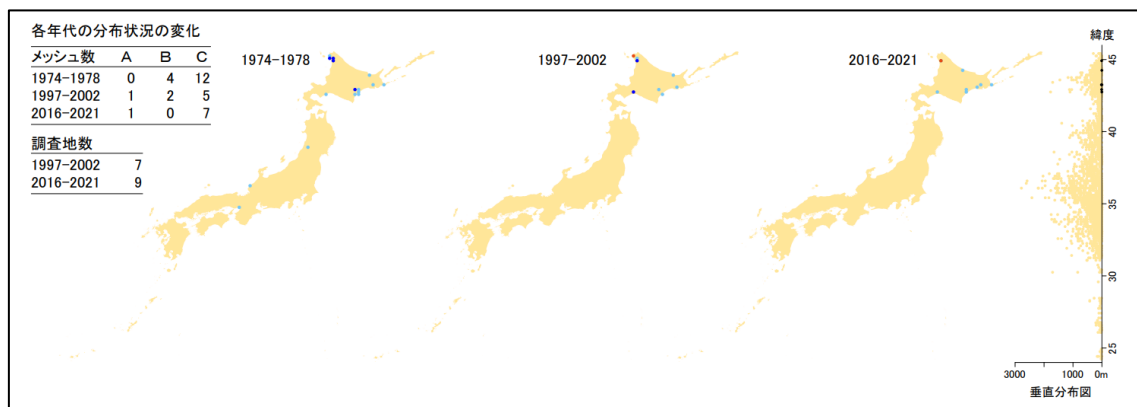


図 11 全国鳥類繁殖分布調査報告(2016－2021 年)分布図(ヨシガモ)

【捕獲状況】

狩猟のみで捕獲されており、捕獲数は毎年 800 羽未満で推移している。

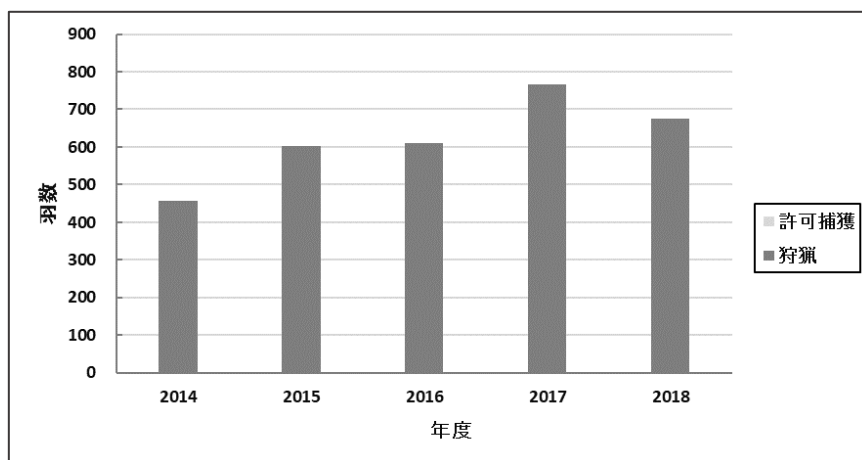


図 12 捕獲数の推移(ヨシガモ)

【レッドデータブック】

地方版： —

【生息状況等】 冬鳥として渡来する。



図 13 第3回基礎調査分布図(ヒドリガモ)

【捕獲状況】

ほとんどが狩猟による捕獲で、捕獲数は 2,000～3,500 羽で推移しているが、近年やや減少傾向にある。

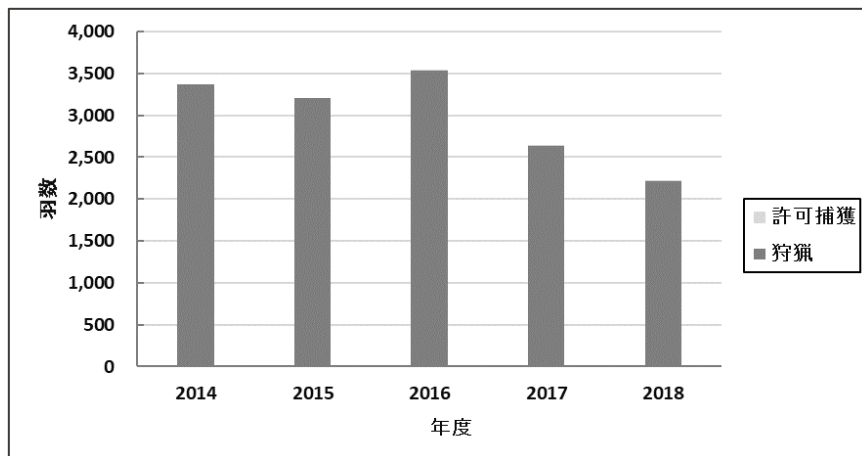


図 14 捕獲数の推移(ヒドリガモ)

< 8 > オナガガモ (*Anas acuta*)

【レッドデータブック】

環境省：－

地方版：－

【生息状況等】 冬鳥として渡来する。分布域に大きな変化はない。

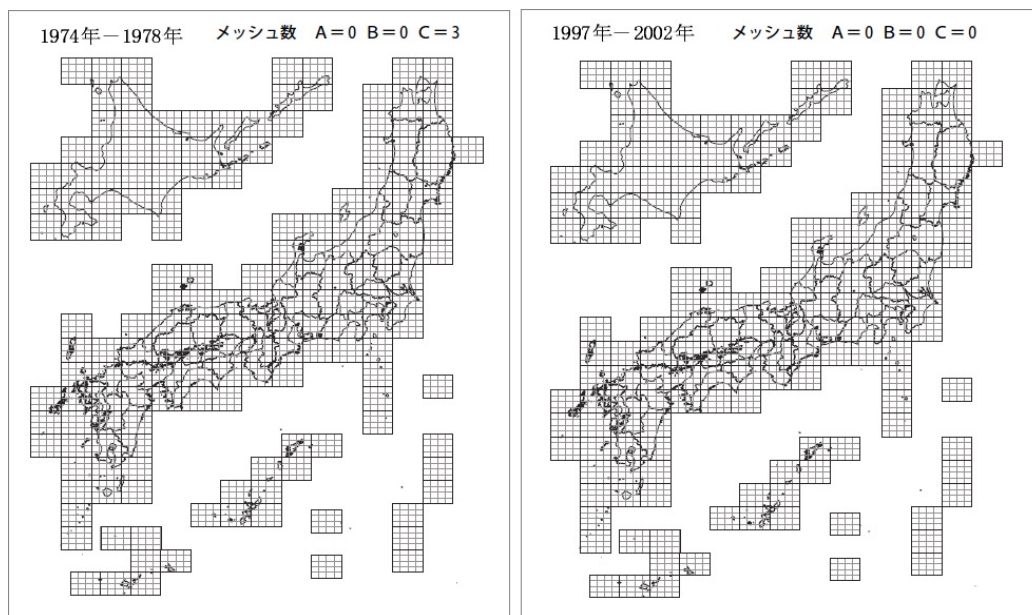


図 15 第2回基礎調査(左)及び第6回基礎調査(右)分布図(オナガガモ)

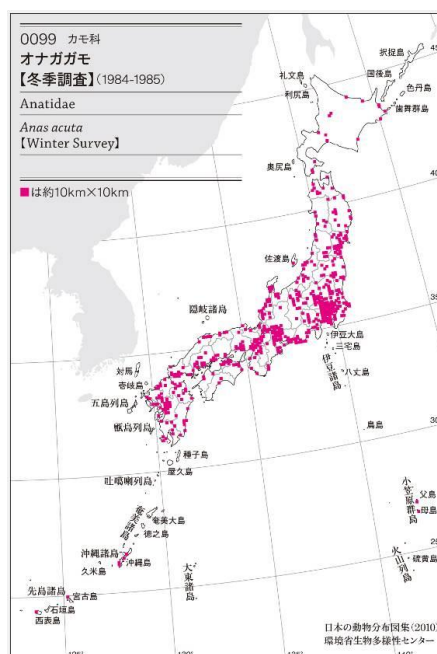


図 16 第3回基礎調査分布図(オナガガモ)

【捕獲状況】

狩猟による捕獲が多いものの、一定の割合で許可による捕獲も行われている。
捕獲数は7,000～10,000羽で推移している。

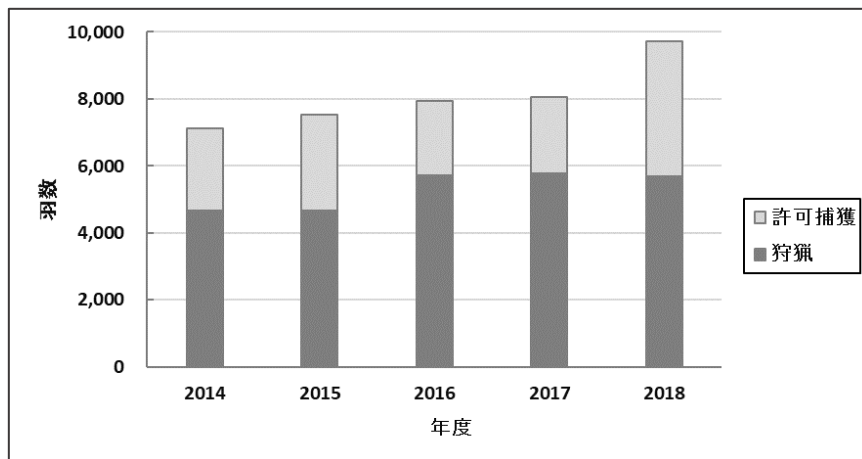


図 17 捕獲数の推移(オナガガモ)

< 9 > ハシビロガモ (*Anas clypeata*)

【レッドデータブック】

環境省：－

地方版：3 県

表4 地方版レッドデータブック掲載状況

カテゴリ	掲載県	県名
絶滅(EX) または野生絶滅(EW)		
絶滅危惧ⅠA・ⅠB類(CR, EN)		
絶滅危惧Ⅱ類(VU)	1	高知
準絶滅危惧(NT)	2	青森、長崎
情報不足(DD)		
絶滅のおそれのある地域個体群(LP)		
その他県独自カテゴリ		

【生息状況等】 冬鳥として渡来し、北海道で少数が繁殖する。

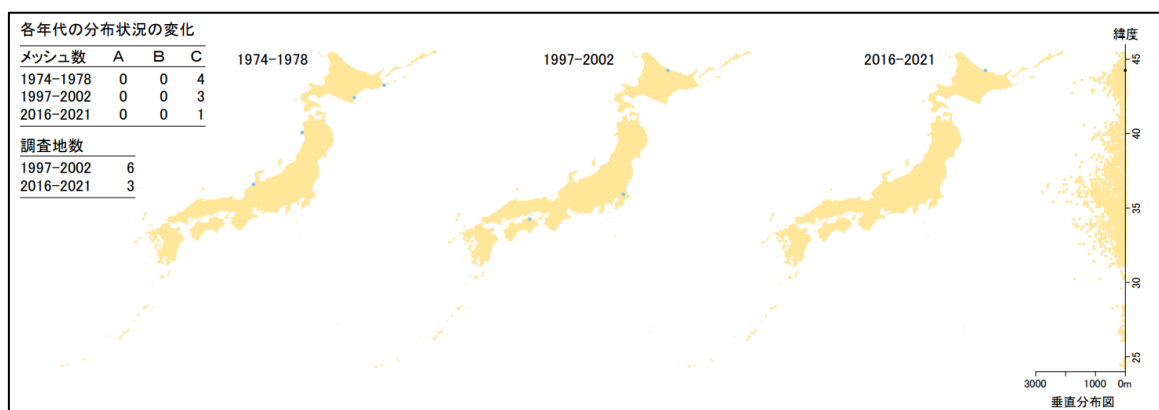


図 18 全国鳥類繁殖分布調査報告(2016－2021 年)分布図(ハシビロガモ)

【捕獲状況】

狩猟による捕獲が多くを占めるが、許可による捕獲も一定の割合で行われている。捕獲数は800～1,200羽で推移している。

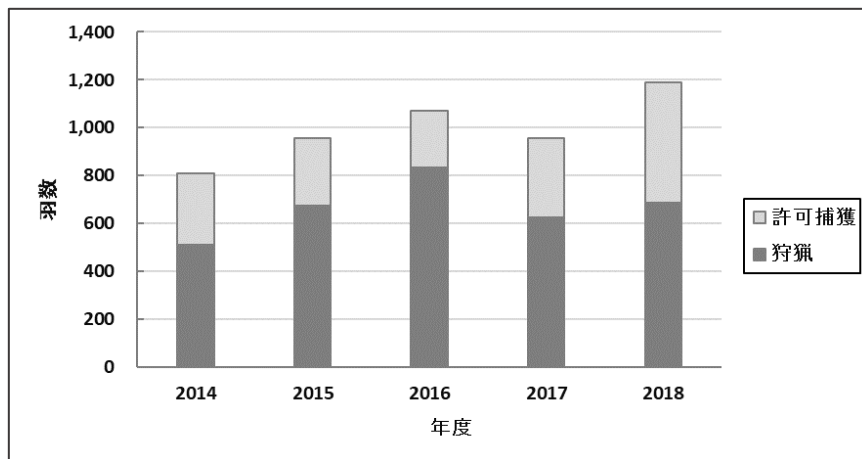


図 19 捕獲数の推移(ハシビロガモ)

< 10 > ホシハジロ (*Aythya ferina*)

【レッドデータブック】

環境省：ー

地方版：1 都

表5 地方版レッドデータブック掲載状況

カテゴリ	掲載県	県名
絶滅(EX) または野生絶滅(EW)		
絶滅危惧ⅠA・ⅠB類(CR, EN)		
絶滅危惧Ⅱ類(VU)	1	東京都
準絶滅危惧(NT)		
情報不足(DD)		
絶滅のおそれのある地域個体群(LP)		
その他県独自カテゴリ		

【生息状況等】 冬鳥として全国に渡来。北海道で繁殖例がある。

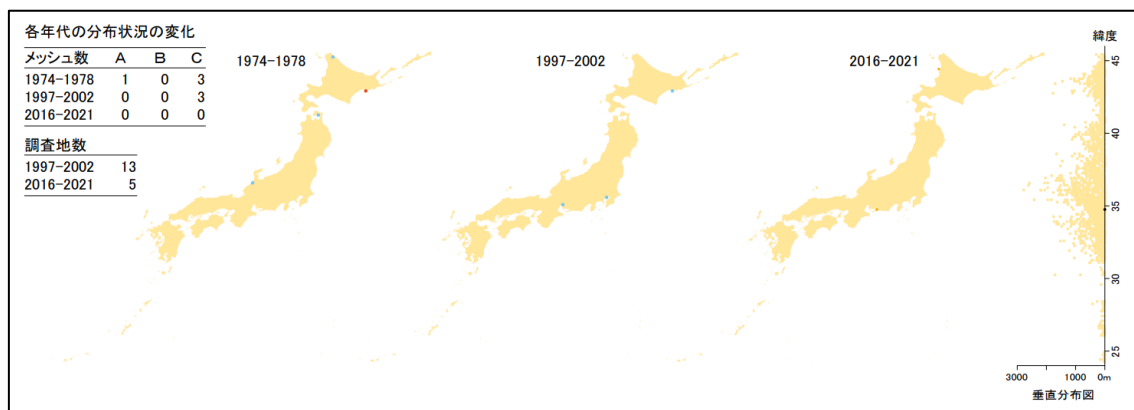


図 20 全国鳥類繁殖分布調査報告(2016－2021 年)分布図(ホシハジロ)

【捕獲状況】

狩猟による捕獲が多くを占めるが、一定の割合で許可による捕獲も行われている。捕獲数は1,500～3,000羽で推移している。

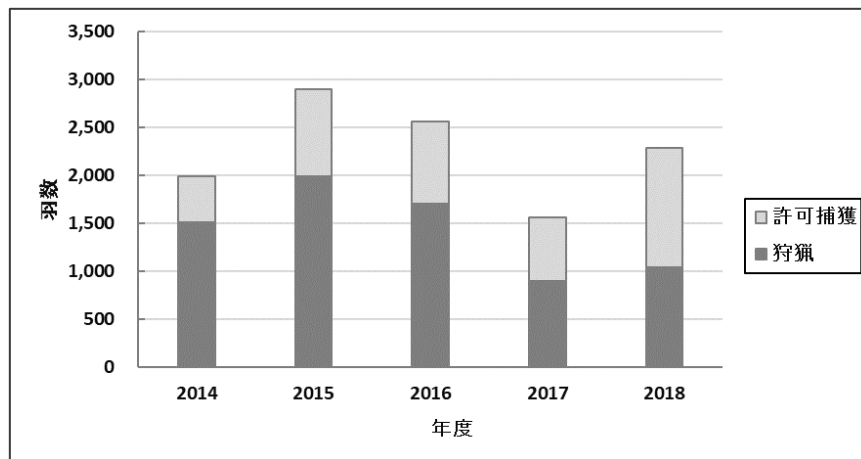


図 21 捕獲数の推移(ホシハジロ)

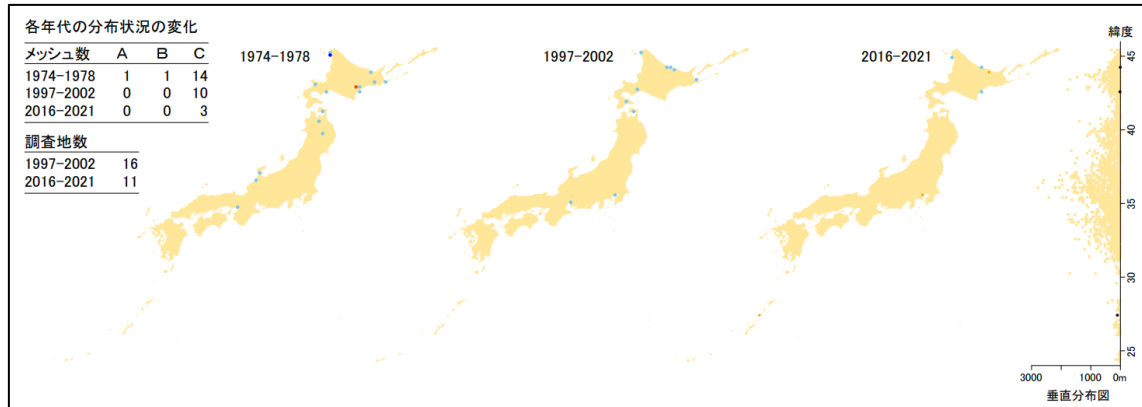
< 1 1 > キンクロハジロ (*Aythya fuligula*)

【レッドデータブック】

環境省：－

地方版：－

【生息状況等】 冬鳥として渡来する。



- A 繁殖を確認した
- B 繁殖の確認はできなかったが、繁殖の可能性はある
- C 生息を確認したが、繁殖の可能性は、何ともいえない
- D 生息を確認したが、繁殖の可能性は、おそらくない

図 22 全国鳥類繁殖分布調査報告(2016－2021 年)分布図(キンクロハジロ)

【捕獲状況】

狩猟による捕獲が多くを占めるが、一定の割合で許可による捕獲も行われている。捕獲数は1,000～1,700羽で推移している。

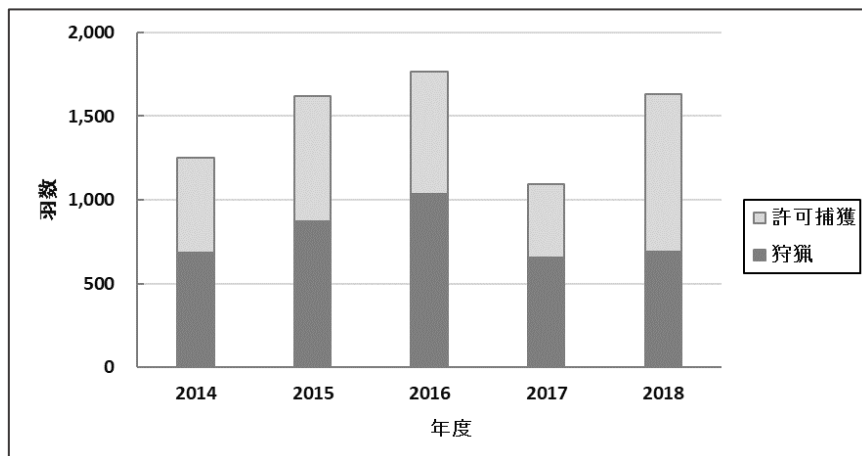


図 23 捕獲数の推移(キンクロハジロ)

< 1 2 >スズガモ (*Aythya marila*)

【レッドデータブック】

環境省：－

地方版：2 都県

表6 地方版レッドデータブック掲載状況

カテゴリ	掲載県	県名
絶滅(EX)または野生絶滅(EW)		
絶滅危惧ⅠA・ⅠB類(CR, EN)		
絶滅危惧Ⅱ類(VU)		
準絶滅危惧(NT)	1	千葉
情報不足(DD)		
絶滅のおそれのある地域個体群(LP)		
その他県独自カテゴリ	1	東京都(留意種)

【生息状況等】冬鳥として全国に渡来する。

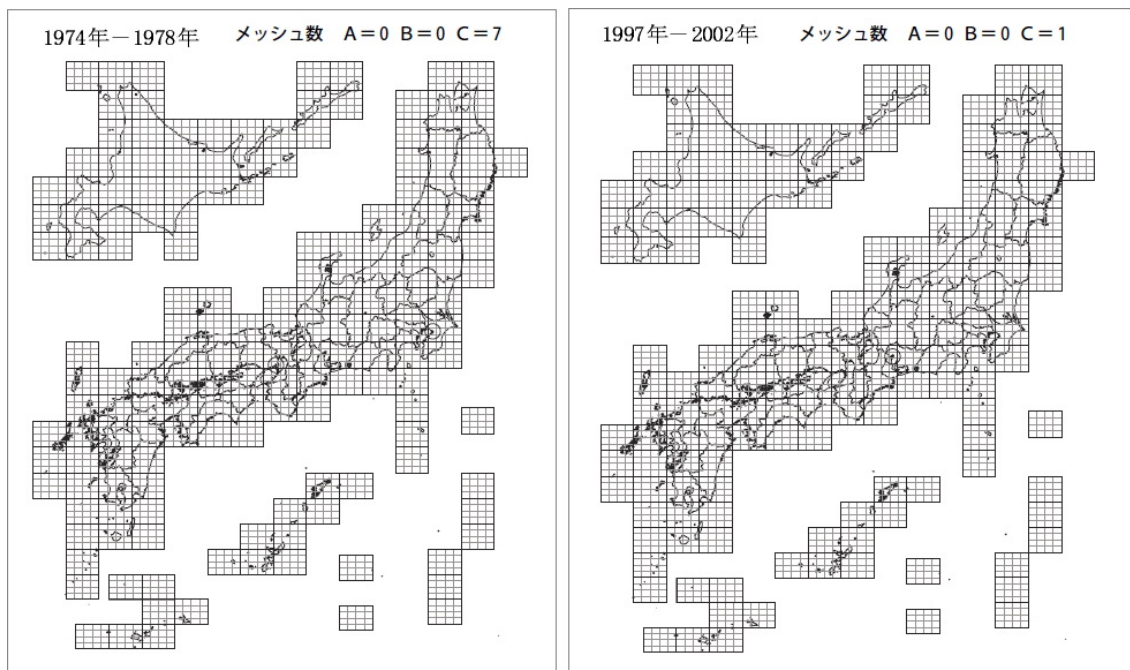


図 24 第2回基礎調査(左)及び第6回基礎調査(右)分布図(スズガモ)



図 25 第3回基礎調査分布図(スズガモ)

【捕獲状況】

狩猟による捕獲が多くを占めているが、一定の割合で許可による捕獲も行われている。捕獲数は 300 羽程度、多い年で 650 羽で推移している。

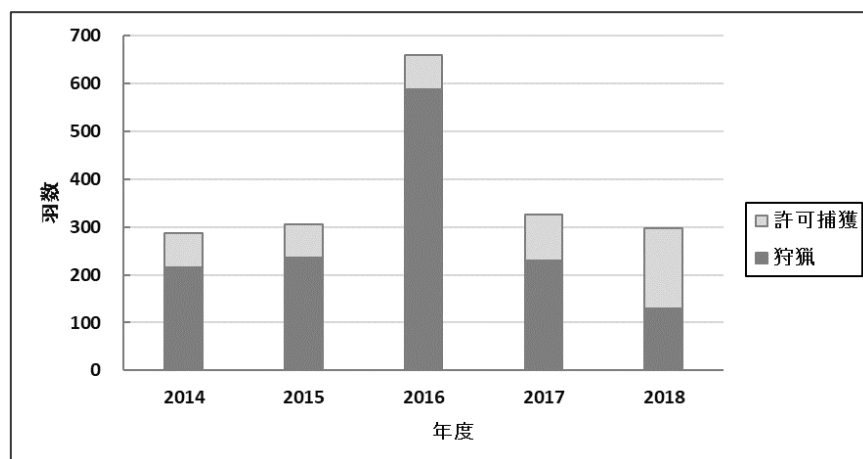


図 26 捕獲数の推移(スズガモ)

< 1 3 > クロガモ (*Melanitta nigra*)

【レッドデータブック】

環境省：ー

地方版：11 都府県

表7 地方版レッドデータブック掲載状況

カテゴリ	掲載県	県名
絶滅(EX) または野生絶滅(EW)		
絶滅危惧ⅠA・ⅠB類(CR, EN)		
絶滅危惧Ⅱ類(VU)	3	京都、徳島、福岡
準絶滅危惧(NT)	6	秋田、山形、石川、愛知、兵庫、長崎
情報不足(DD)	1	東京都
絶滅のおそれのある地域個体群(LP)		
その他県独自カテゴリ	1	福井（要注目）

【生息状況等】 北海道の一部で繁殖する。



図 27 第3回基礎調査分布図(クロガモ)

【捕獲状況】

ほとんどが狩猟によって捕獲されており、捕獲数は120～350羽で推移している。

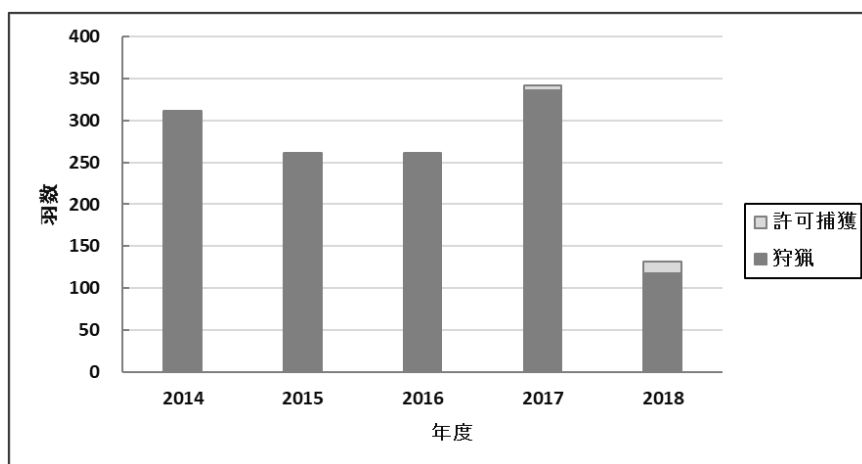


図 28 捕獲数の推移(クロガモ)

< 14 > エゾライチョウ (*Tetrastes bonasia*)

【レッドデータブック】

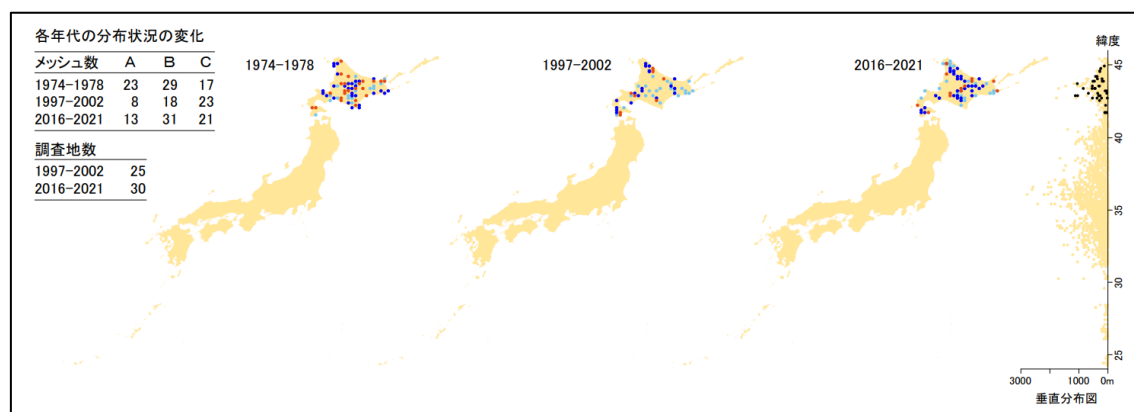
環境省：DD

地方版：1 道

表8 地方版レッドデータブック掲載状況

カテゴリ	掲載県	県名
絶滅(EX) または野生絶滅(EW)		
絶滅危惧ⅠA・ⅠB類(CR, EN)		
絶滅危惧Ⅱ類(VU)		
準絶滅危惧(NT)		
情報不足(DD)		
絶滅のおそれのある地域個体群(LP)		
その他県独自カテゴリ	1	北海道（留意種）

【生息状況等】 分布域は拡大した。



- A 繁殖を確認した
- B 繁殖の確認はできなかったが、繁殖の可能性はある
- C 生息を確認したが、繁殖の可能性は、何ともいえない
- D 生息を確認したが、繁殖の可能性は、おそらくない

図 29 全国鳥類繁殖分布調査報告(2016－2021 年)分布図(エゾライチョウ)

【捕獲状況】

狩猟による捕獲のみ行われており、捕獲数は150～400羽で推移している。

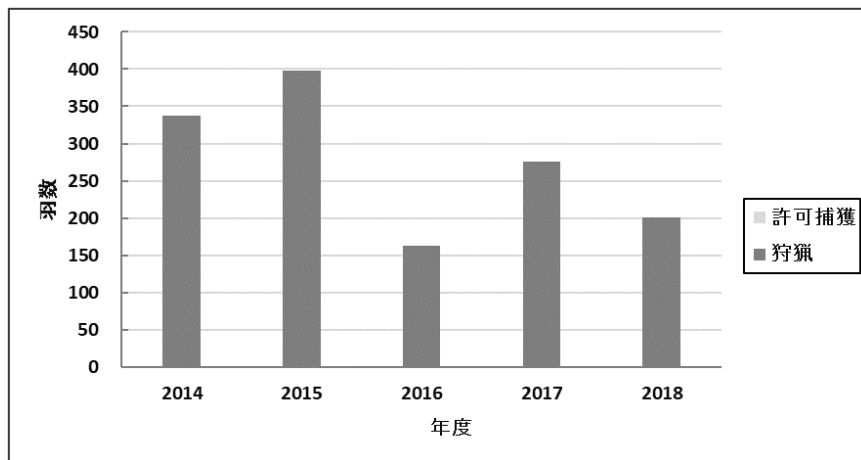


図 30 捕獲数の推移(エゾライチョウ)

< 15 > ヤマドリ (*Syrmaticus soemmerringii*)

【レッドデータブック】

環境省：－

地方版：24 都府県

表9 地方版レッドデータブック掲載状況

カテゴリ	掲載県	県名
絶滅(EX) または野生絶滅(EW)		
絶滅危惧ⅠA・ⅠB類(CR, EN)	2	東京都、山口
絶滅危惧Ⅱ類(VU)	4	埼玉、千葉、神奈川、福岡
準絶滅危惧(NT)	13	青森、山形、栃木、石川、岐阜、静岡、三重、京都、奈良、和歌山、香川、大分、宮崎
情報不足(DD)	3	岩手、高知、佐賀
絶滅のおそれのある地域個体群(LP)		
その他県独自カテゴリ	2	滋賀（その他重要種）、兵庫（要注目種）

【生息状況等】 分布域は拡大した。

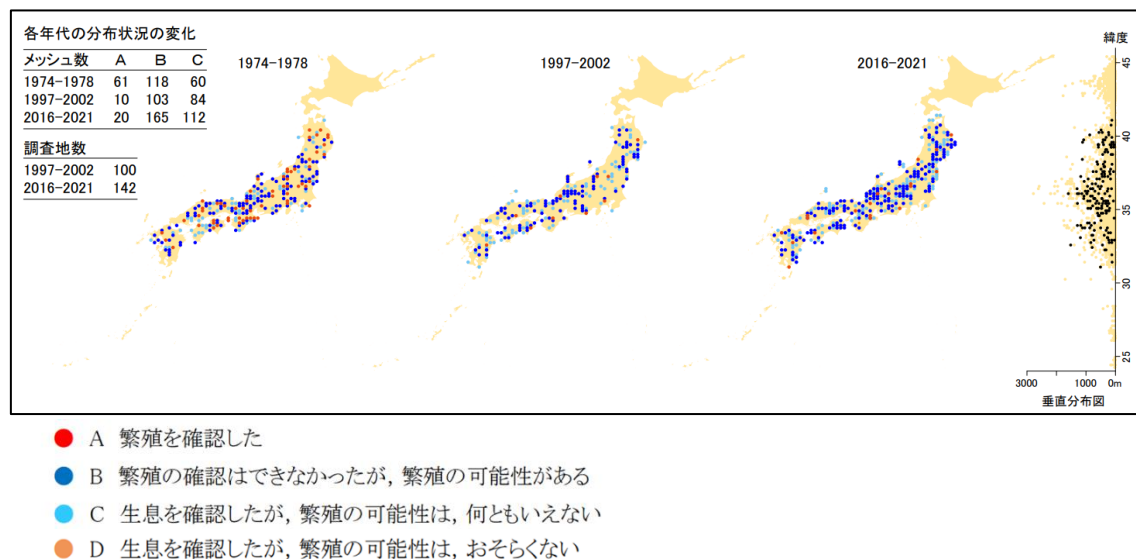


図 31 全国鳥類繁殖分布調査報告(2016－2021 年)分布図(ヤマドリ)

【捕獲状況】

ほとんどが狩猟による捕獲で、捕獲数は近年やや減少傾向にある。

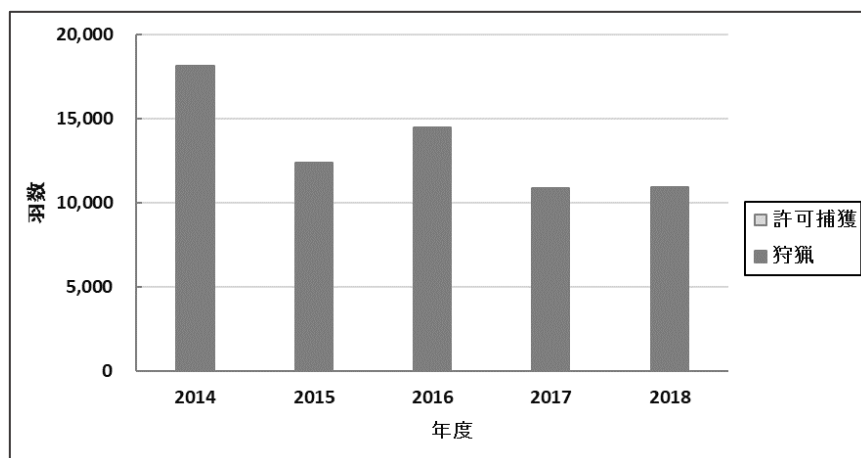


図 32 捕獲数の推移(ヤマドリ)

< 1 6 > キジ (*Phasianus colchicus*) (亜種コウライキジを含む)

【レッドデータブック】

環境省：－

地方版：1 都

表 10 地方版レッドデータブック掲載状況

カテゴリ	掲載県	県名
絶滅(EX) または野生絶滅(EW)		
絶滅危惧ⅠA・ⅠB類(CR, EN)	1	東京都
絶滅危惧Ⅱ類(VU)		
準絶滅危惧(NT)		
情報不足(DD)		
絶滅のおそれのある地域個体群(LP)		
その他県独自カテゴリ		

【生息状況等】

分布域は拡大した。北海道と対馬には移入された亜種コウライキジ *P. c. karpowi* が生息。日本の亜種を別種とする説もある。

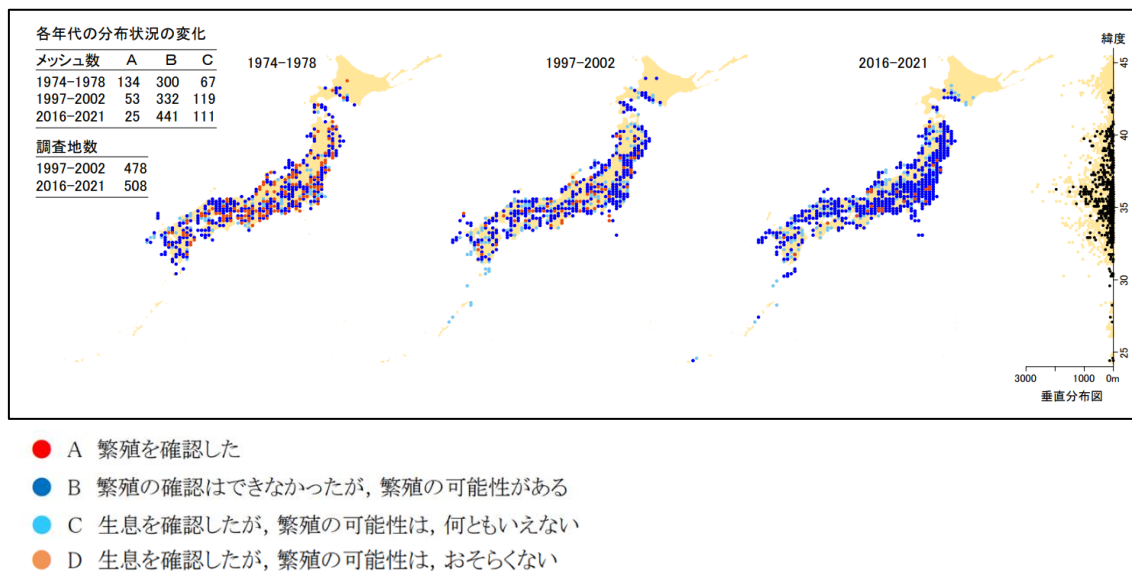


図 33 全国鳥類繁殖分布調査報告(2016－2021 年)分布図(キジ)

【捕獲状況】

ほとんどが狩猟によって捕獲されており、狩猟による捕獲が近年やや減少傾向にある。

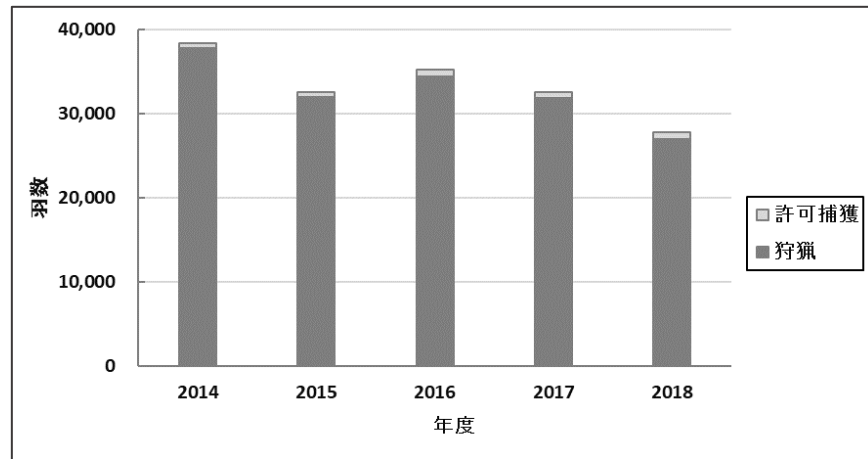


図 34 捕獲数の推移(キジ)

【被害状況】

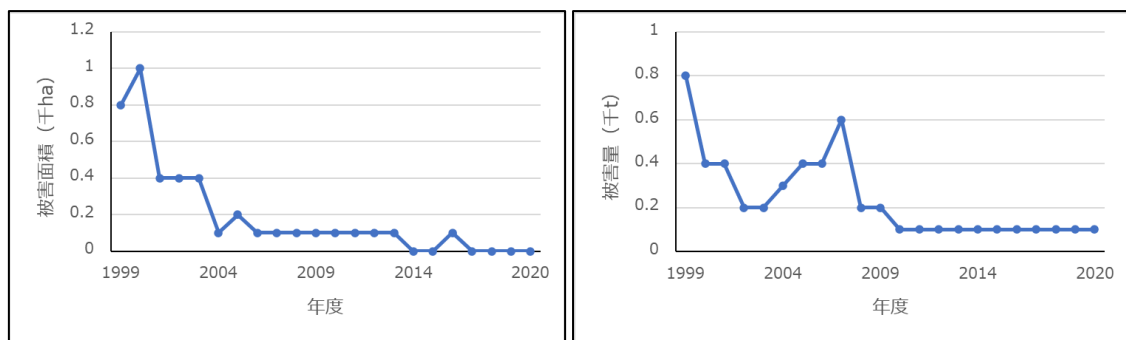


図 35 キジによる農作物被害面積の推移(左)および農作物被害量の推移(右)

< 1 7 > コジュケイ (*Bambusicola thoracica*)

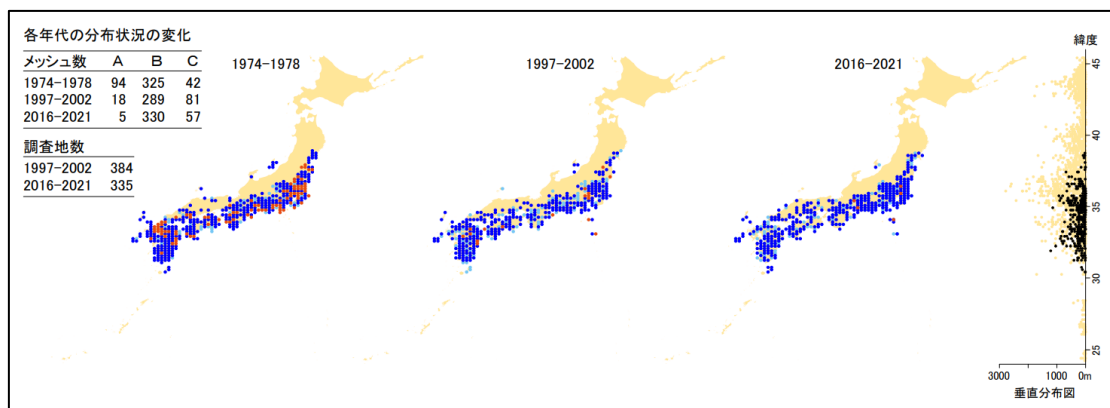
【レッドデータブック】

環境省：－

地方版：－

【生息状況等】

外来鳥獣で、自然分布は中国南部の四川省。分布域に大きな変化はない。



- A 繁殖を確認した
- B 繁殖の確認はできなかったが、繁殖の可能性はある
- C 生息を確認したが、繁殖の可能性は、何ともいえない
- D 生息を確認したが、繁殖の可能性は、おそらくない

図 36 全国鳥類繁殖分布調査報告(2016－2021 年)分布図(コジュケイ)

【捕獲状況】

ほとんどが狩猟による捕獲で、捕獲数は近年減少傾向にある。

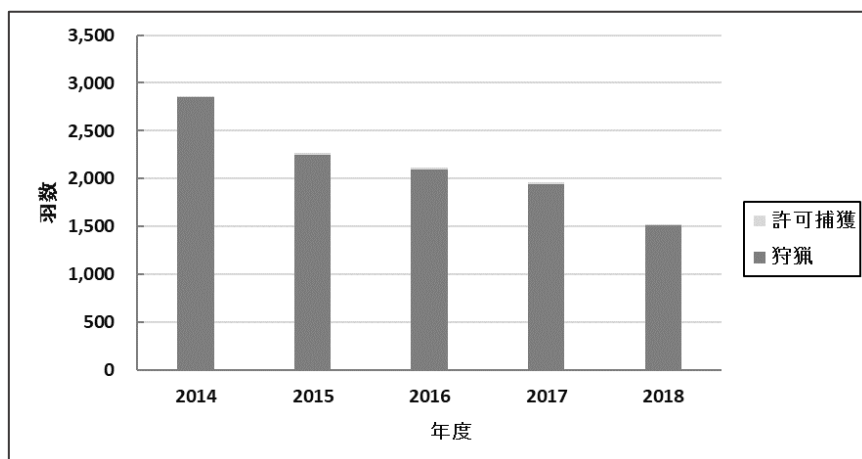


図 37 捕獲数の推移(コジュケイ)

< 18 >バン (*Gallinula chloropus*)

【レッドデータブック】

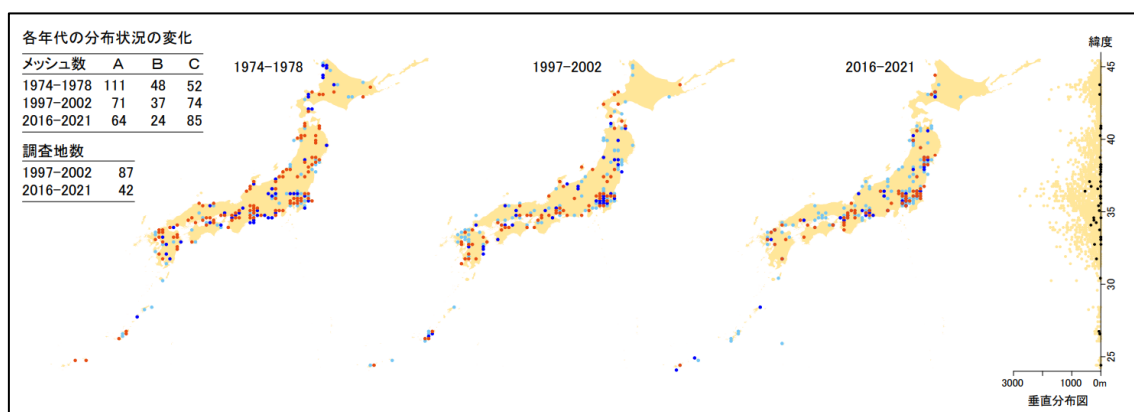
環境省：－

地方版：10 都県

表 11 地方版レッドデータブック掲載状況

カテゴリ	掲載県	県名
絶滅(EX) または野生絶滅(EW)		
絶滅危惧ⅠA・ⅠB類(CR, EN)	2	千葉、東京都
絶滅危惧Ⅱ類(VU)	1	愛知
準絶滅危惧(NT)	6	青森、山形、福島、埼玉、石川、滋賀
情報不足(DD)	1	岩手
絶滅のおそれのある地域個体群(LP)		
その他県独自カテゴリ		

【生息状況等】 分布域は縮小傾向にある。



- A 繁殖を確認した
- B 繁殖の確認はできなかったが、繁殖の可能性はある
- C 生息を確認したが、繁殖の可能性は、何ともいえない
- D 生息を確認したが、繁殖の可能性は、おそらくない

図 38 全国鳥類繁殖分布調査報告(2016-2021 年)分布図(バン)

【捕獲状況】

狩猟による捕獲数は年間 150～300 羽程度であるが、近年減少傾向にある。

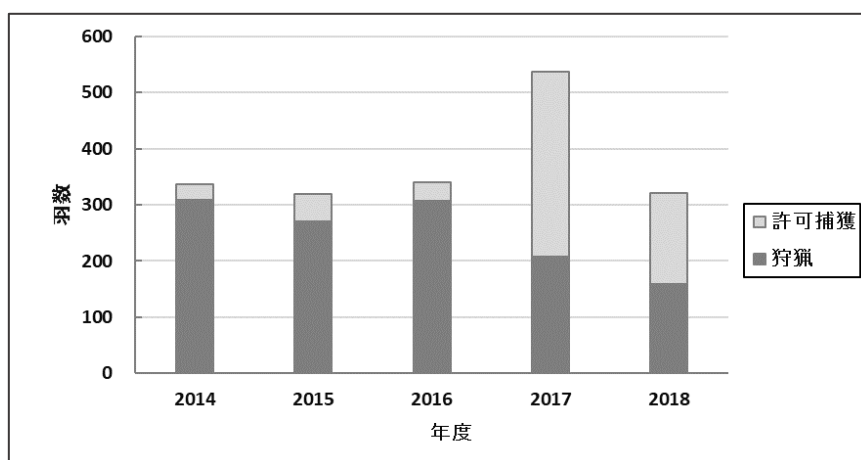


図 39 捕獲数の推移(バン)

< 19 > ヤマシギ (*Scolopax rusticola*)

【レッドデータブック】

環境省：－

地方版：28 道都府県

表 12 地方版レッドデータブック掲載状況

カテゴリ	掲載県	県名
絶滅(EX) または野生絶滅(EW)		
絶滅危惧ⅠA・ⅠB類(CR, EN)	1	和歌山
絶滅危惧Ⅱ類(VU)	6	青森、埼玉、東京都、京都府、兵庫、香川
準絶滅危惧(NT)	13	岩手、秋田、山形、栃木、石川、福井、愛知、滋賀、奈良、山口、徳島、高知、長崎
情報不足(DD)	6	福島、群馬、山梨、長野、静岡、岡山
絶滅のおそれのある地域個体群(LP)		
その他県独自カテゴリ	2	北海道（留意種）、神奈川（希少種）

【生息状況等】 分布域は少し拡大した。

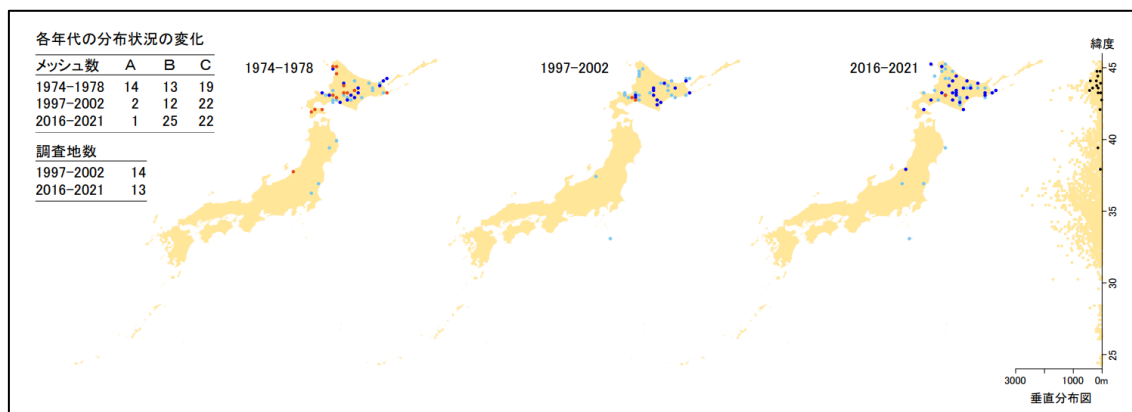


図 40 全国鳥類繁殖分布調査報告(2016－2021 年)分布図(ヤマシギ)

【捕獲状況】

ほとんどが狩猟による捕獲で、捕獲数は年間 250～300 羽で推移している。

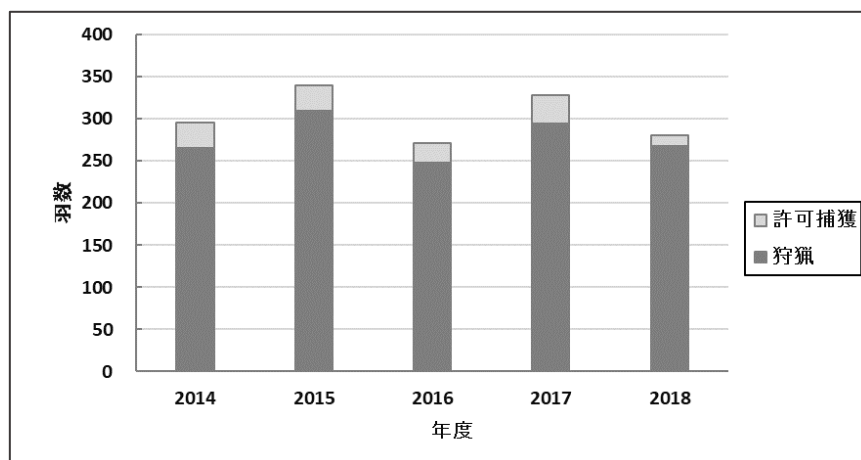


図 41 捕獲数の推移(ヤマシギ)

< 20 > タシギ (*Gallinago gallinago*)

【レッドデータブック】

環境省：－

地方版：7 都府県

表 13 地方版レッドデータブック掲載状況

カテゴリ	掲載県	県名
絶滅(EX) または野生絶滅(EW)		
絶滅危惧ⅠA・ⅠB類(CR, EN)		
絶滅危惧Ⅱ類(VU)	2	東京都、兵庫
準絶滅危惧(NT)	4	秋田、滋賀、大阪府、奈良
情報不足(DD)		
絶滅のおそれのある地域個体群(LP)		
その他県独自カテゴリ	1	神奈川県 (注目種)

【生息状況等】

旅鳥または冬鳥として渡来し、離島を含め広く分布。分布域に大きな変化はない。

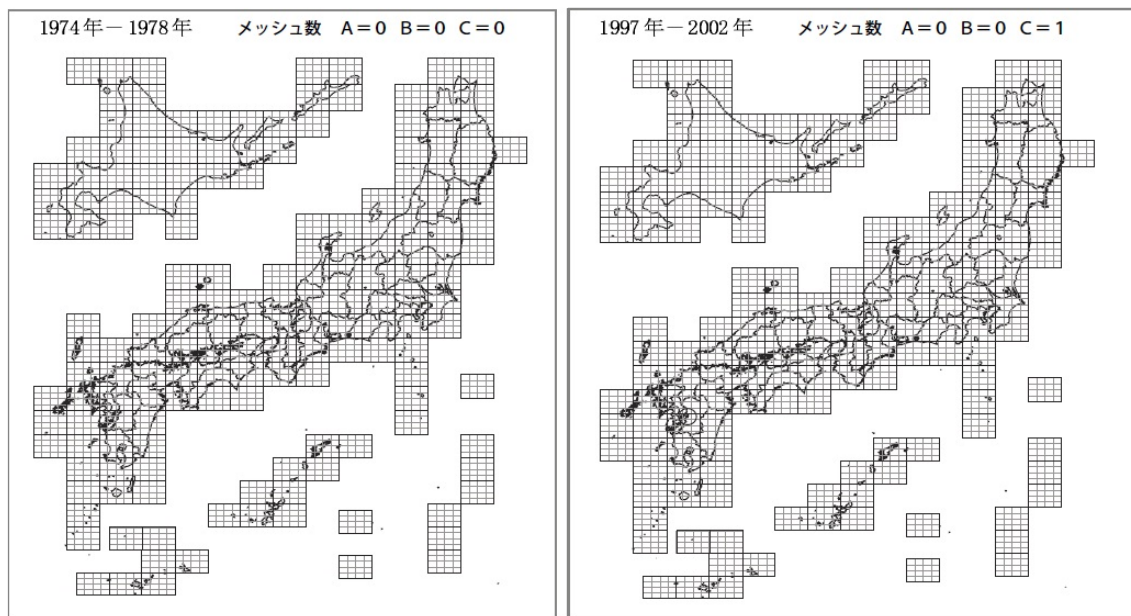


図 42 第2回基礎調査(左)及び第6回基礎調査(右)分布図(タシギ)

【捕獲状況】

ほとんどが狩猟による捕獲で、捕獲数は減少傾向にある。

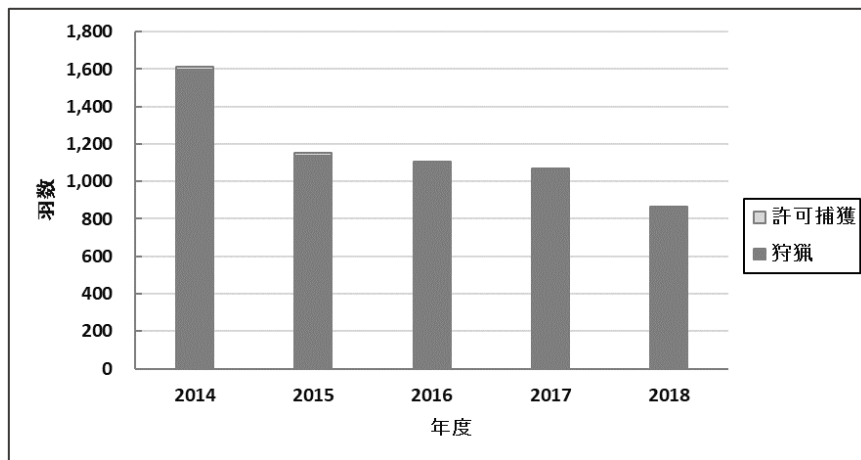


図 43 捕獲数の推移(タシギ)

< 2 1 > キジバト (*Streptopelia orientalis*)

【レッドデータブック】

環境省： －

地方版： －

【生息状況等】

分布が確認されたメッシュ数に大きな変化はないが、繁殖を確認した A ランクのメッシュは減少した。南西諸島の奄美大島から与那国島で繁殖するものはリュウキュウキジバト *S. o. stimpsoni* で、国内で繁殖するキジバトとは別亜種。

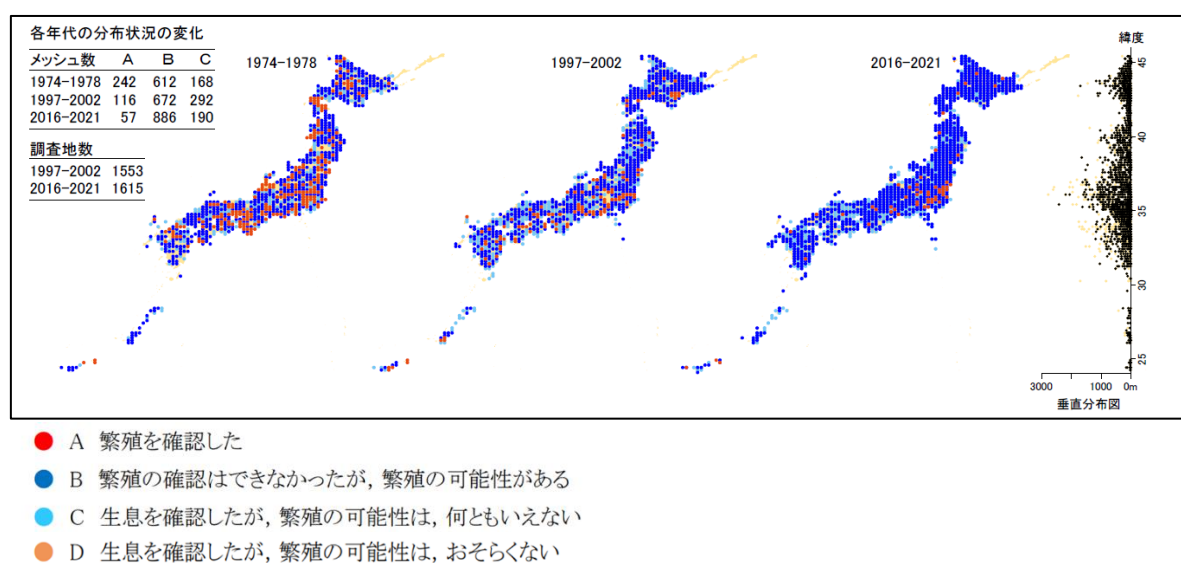


図 44 全国鳥類繁殖分布調査報告(2016-2021 年)分布図(キジバト)

【捕獲状況】

狩猟による捕獲数は減少傾向にある。

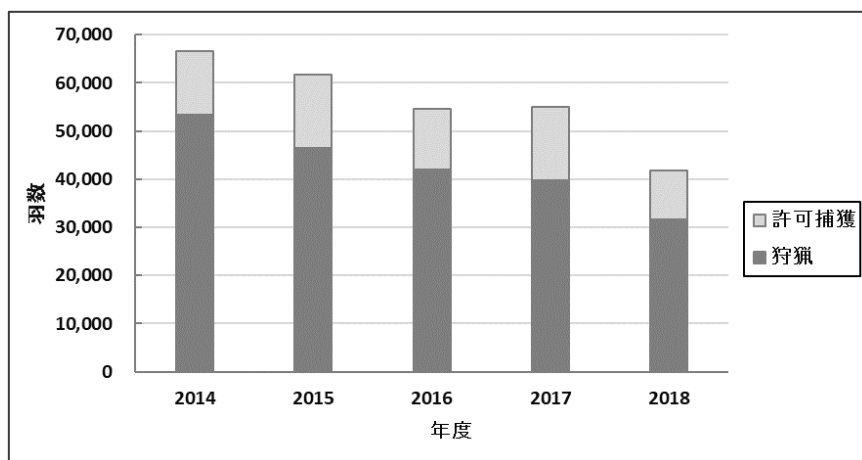


図 45 捕獲数の推移(キジバト)

< 2 2 > ヒヨドリ (*Hypsipetes amaurotis*)

【レッドデータブック】

環境省：－

地方版：2 都県

表 14 地方版レッドデータブック掲載状況

カテゴリ	掲載県	県名
絶滅(EX) または野生絶滅(EW)		
絶滅危惧ⅠA・ⅠB類(CR, EN)		
絶滅危惧Ⅱ類(VU)		
準絶滅危惧(NT)	1	沖縄（亜種ダイトウヒヨドリ）
情報不足(DD)		
絶滅のおそれのある地域個体群(LP)		
その他県独自カテゴリ	1	東京都（小笠原：留意種（亜種オガサワラヒヨドリ））

【生息状況等】 分布域は拡大した。

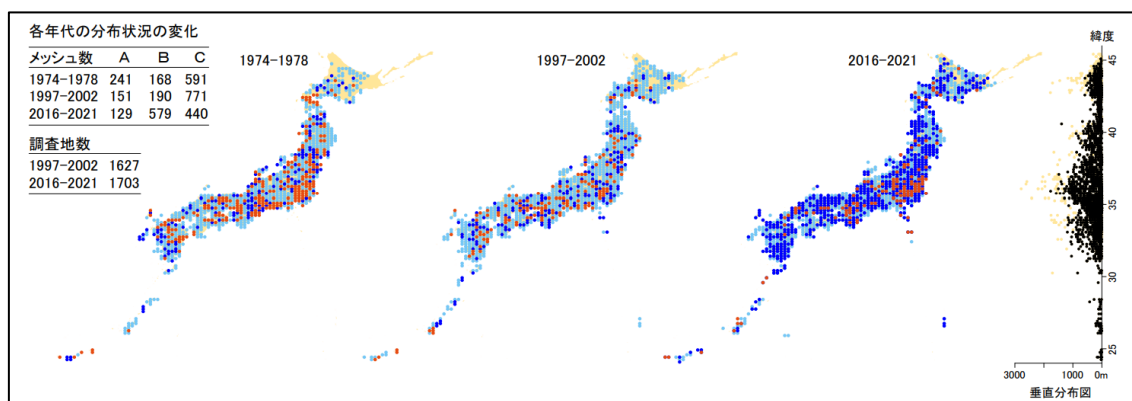


図 46 全国鳥類繁殖分布調査報告(2016-2021 年)分布図(ヒヨドリ)

【捕獲状況】

狩猟による捕獲は大きく減少傾向にある。

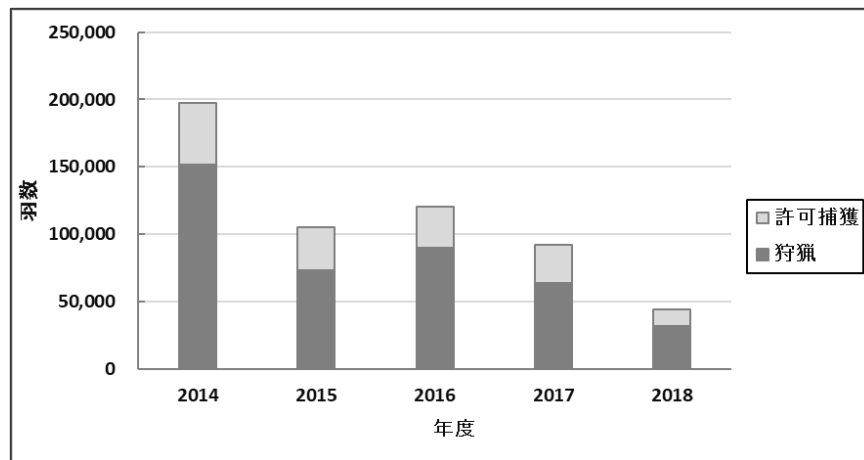


図 47 捕獲数の推移(ヒヨドリ)

< 2 3 > ニュウナイスズメ (*Passer rutilans*)

【レッドデータブック】

環境省：－

地方版：7 県

表 15 地方版レッドデータブック掲載状況

カテゴリ	掲載県	県名
絶滅(EX) または野生絶滅(EW)		
絶滅危惧ⅠA・ⅠB類(CR, EN)	1	神奈川
絶滅危惧Ⅱ類(VU)		
準絶滅危惧(NT)	5	栃木、埼玉、福井、滋賀、福岡
情報不足(DD)	1	群馬
絶滅のおそれのある地域個体群(LP)		
その他県独自カテゴリ		

【生息状況等】 分布域は拡大した。

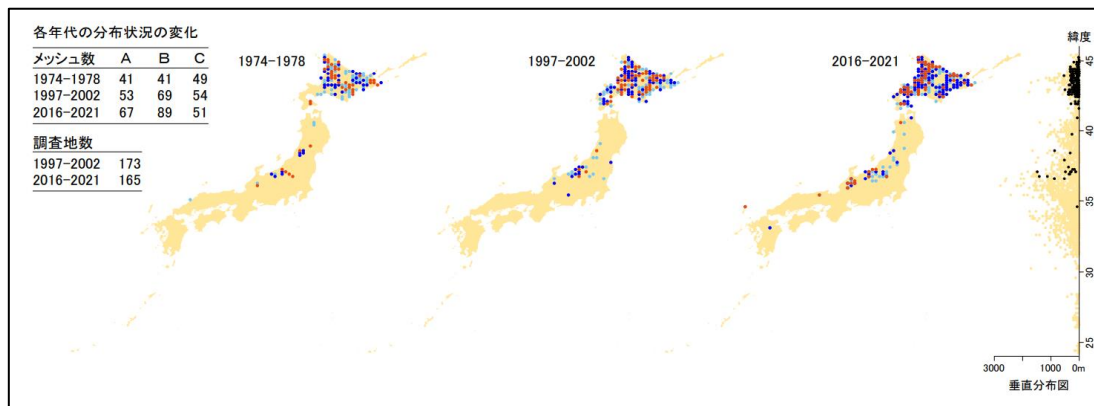


図 48 全国鳥類繁殖分布調査報告(2016－2021 年)分布図(ニュウナイスズメ)

【捕獲状況】

狩猟による捕獲は減少傾向にある。

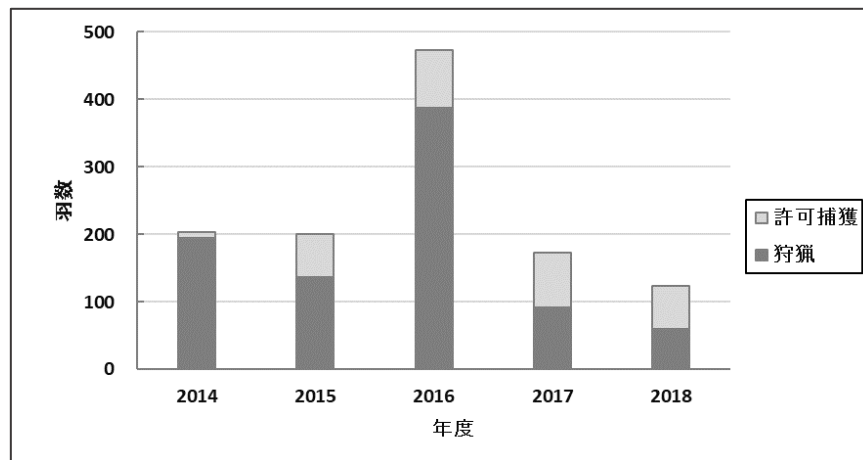


図 49 捕獲数の推移(ニューナイスズメ)

【被害状況】

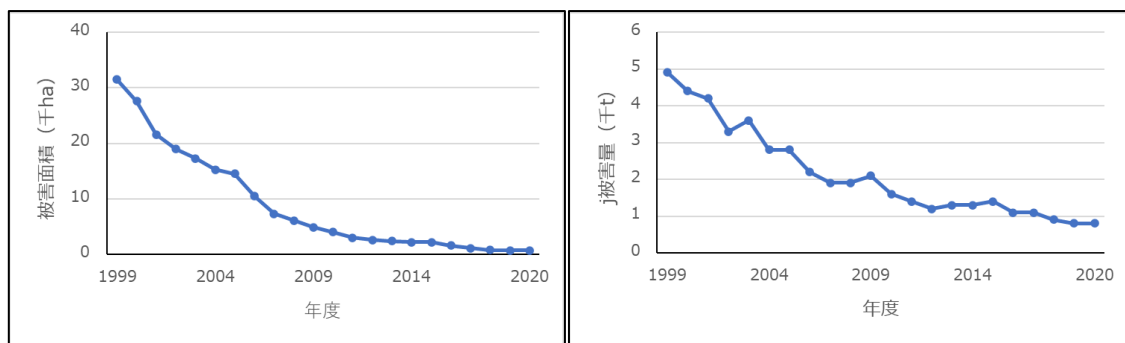


図 50 スズメ類による農作物被害面積の推移(左)および農作物被害量の推移(右)

< 2 4 >スズメ (*Passer montanus*)

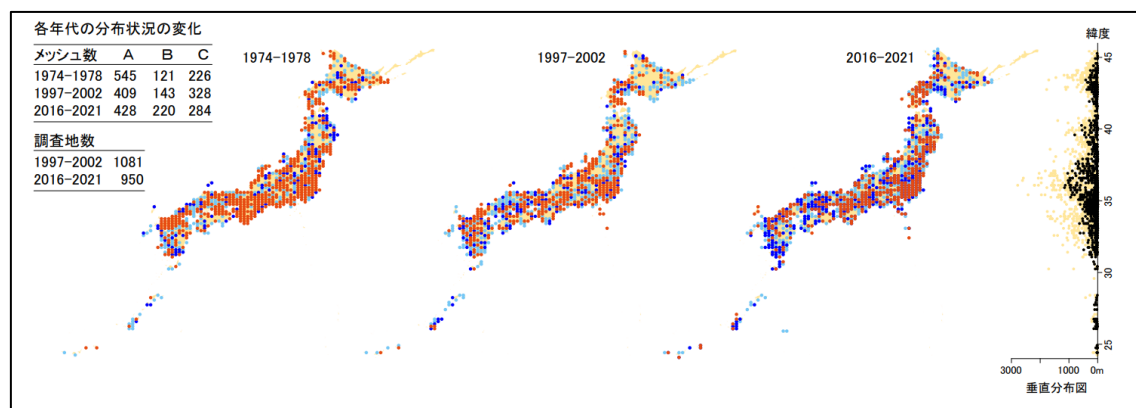
【レッドデータブック】

環境省：－

地方版：－

【生息状況等】

分布を確認したメッシュ数に大きな変化はないが、記録された個体数は大きく減少している。



- A 繁殖を確認した
- B 繁殖の確認はできなかったが、繁殖の可能性はある
- C 生息を確認したが、繁殖の可能性は、何ともいえない
- D 生息を確認したが、繁殖の可能性は、おそらくない

図 51 全国鳥類繁殖分布調査報告(2016－2021 年)分布図(スズメ)

【捕獲状況】

狩猟による捕獲は減少傾向にある。

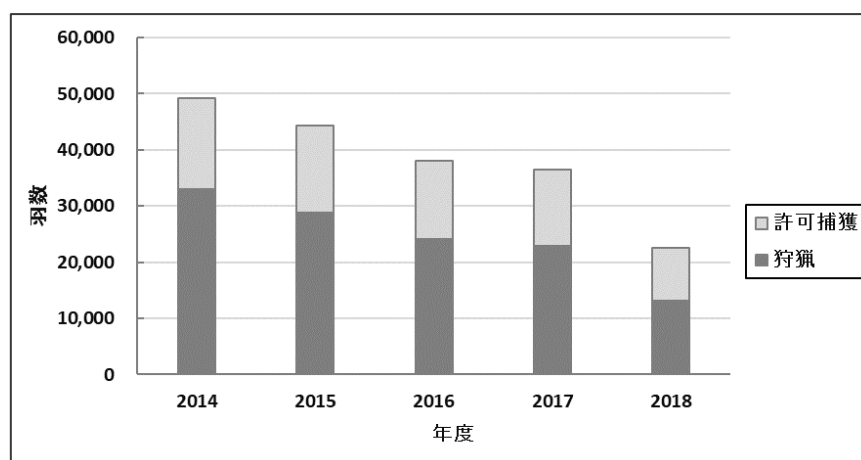


図 52 捕獲数の推移(スズメ)

【被害状況】

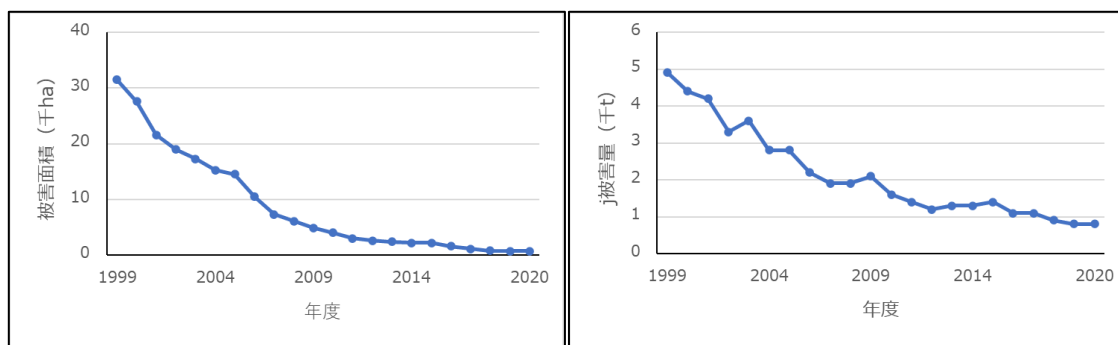


図 53 スズメ類による農作物被害面積の推移(左)および農作物被害量の推移(右)

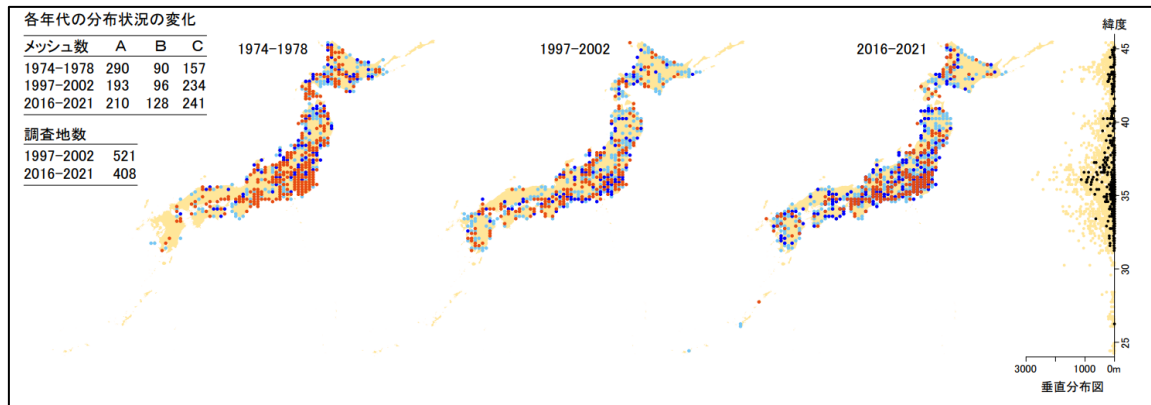
< 2 5 > ムクドリ (*Sturnus cineraceus*)

【レッドデータブック】

環境省：－

地方版：－

【生息状況等】 分布域は拡大した。



- A 繁殖を確認した
- B 繁殖の確認はできなかったが、繁殖の可能性はある
- C 生息を確認したが、繁殖の可能性は、何ともいえない
- D 生息を確認したが、繁殖の可能性は、おそらくない

図 54 全国鳥類繁殖分布調査報告(2016－2021 年)分布図(ムクドリ)

【捕獲状況】

許可による捕獲が大半を占め、捕獲数は減少傾向にある。

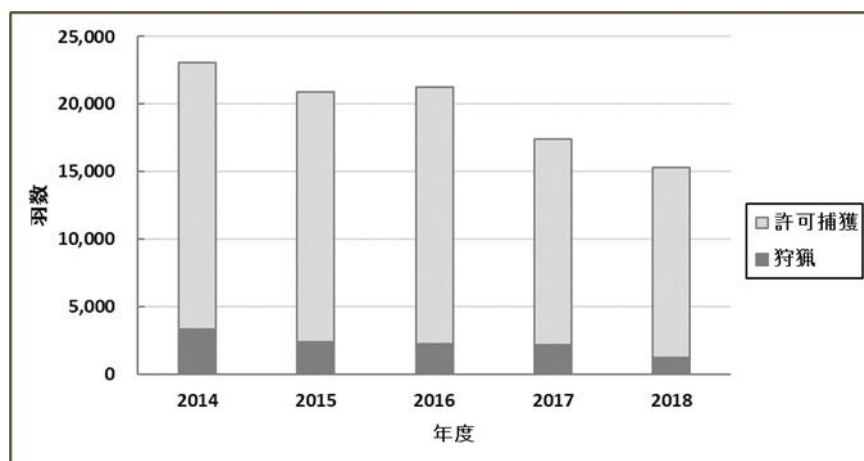


図 55 捕獲数の推移(ムクドリ)

【被害状況】

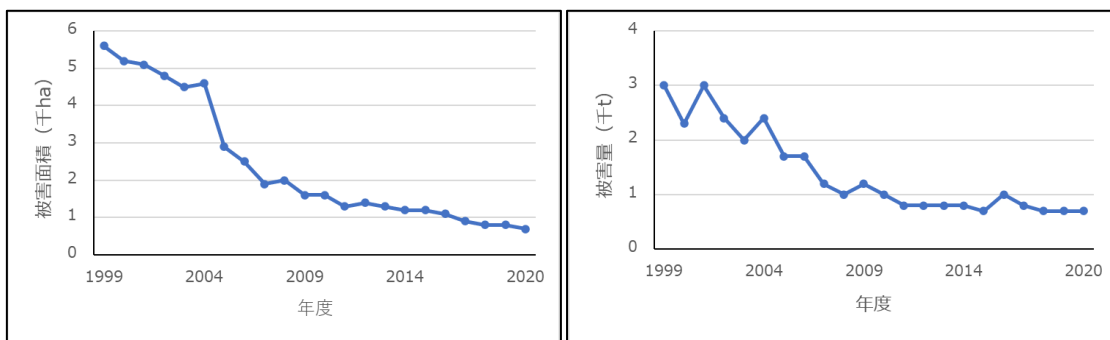


図 56 ムクドリによる農作物被害面積の推移(左)および農作物被害量の推移(右)

< 2 6 >ミヤマガラス (*Corvus frugilegus*)

【レッドデータブック】

環境省：－

地方版：－

【生息状況等】 冬鳥として主に九州に渡来する。



図 57 第3回基礎調査分布図(ミヤマガラス)

【捕獲状況】

捕獲数は近年減少傾向にある。

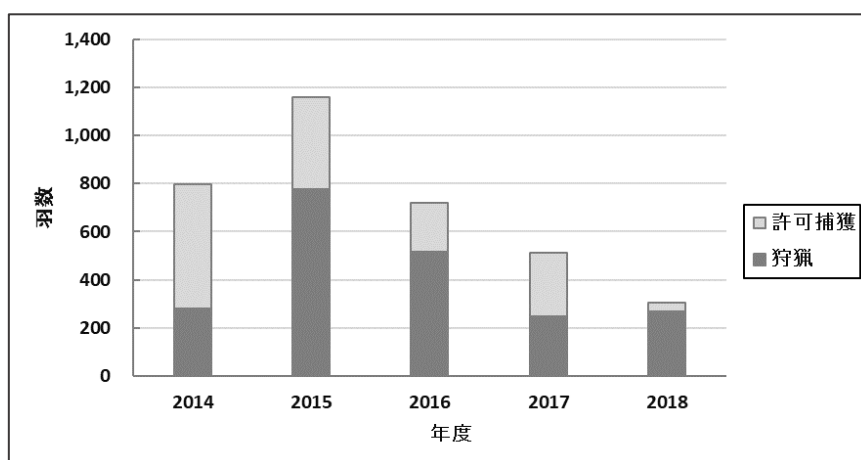


図 58 捕獲数の推移(ミヤマガラス)

【被害状況】

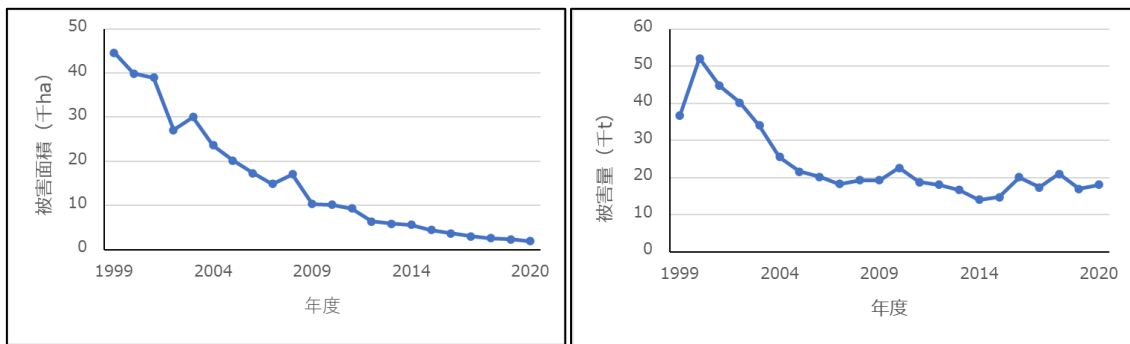


図 59 カラス類による農作物被害面積の推移(左)および農作物被害量の推移(右)

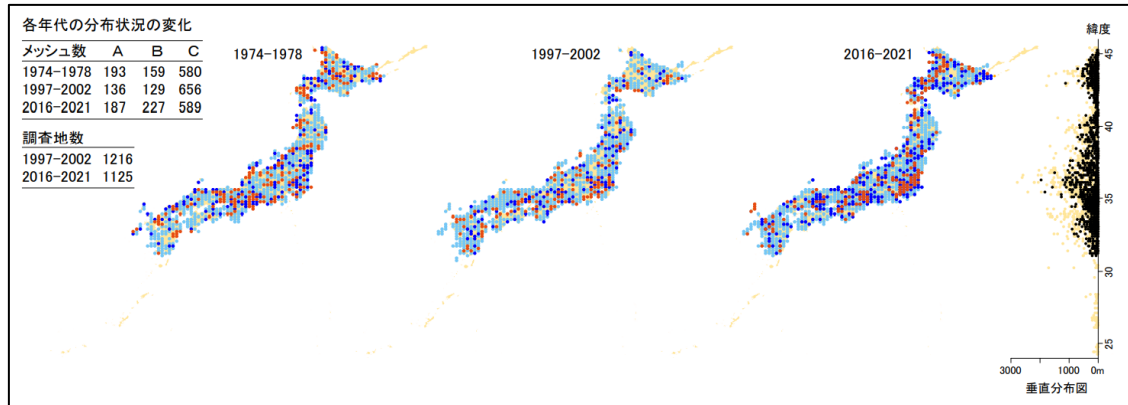
< 27 > ハシボソガラス (*Corvus corone*)

【レッドデータブック】

環境省：－

地方版：－

【生息状況等】 分布域は少し拡大した。



- A 繁殖を確認した
- B 繁殖の確認はできなかったが、繁殖の可能性はある
- C 生息を確認したが、繁殖の可能性は、何ともいえない
- D 生息を確認したが、繁殖の可能性は、おそらくない

図 60 全国鳥類繁殖分布調査報告(2016-2021 年)分布図(ハシボソガラス)

【捕獲状況】

許可による捕獲が大半を占めており、捕獲数は 40,000～60,000 羽で推移している。

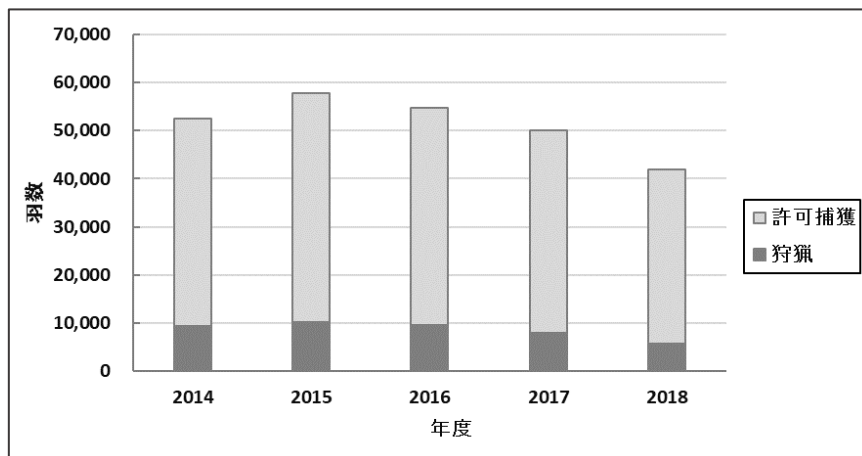


図 61 捕獲数の推移(ハシボソガラス)

【被害状況】

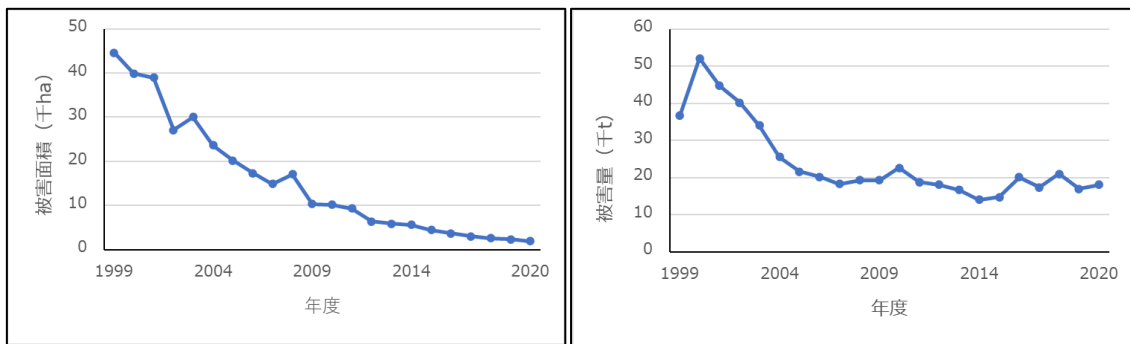


図 62 カラス類による農作物被害面積の推移(左)および農作物被害量の推移(右)

< 28 > ハシブトガラス (*Corvus macrorhynchos*)

【レッドデータブック】

環境省：－

地方版：1 都

表 16 地方版レッドデータブック掲載状況

カテゴリ	掲載県	県名
絶滅(EX) または野生絶滅(EW)	1	東京都 (小笠原：EX)
絶滅危惧ⅠA・ⅠB類(CR, EN)		
絶滅危惧Ⅱ類(VU)		
準絶滅危惧(NT)		
情報不足(DD)		
絶滅のおそれのある地域個体群(LP)		
その他県独自カテゴリ		

【生息状況等】 分布域は拡大した。

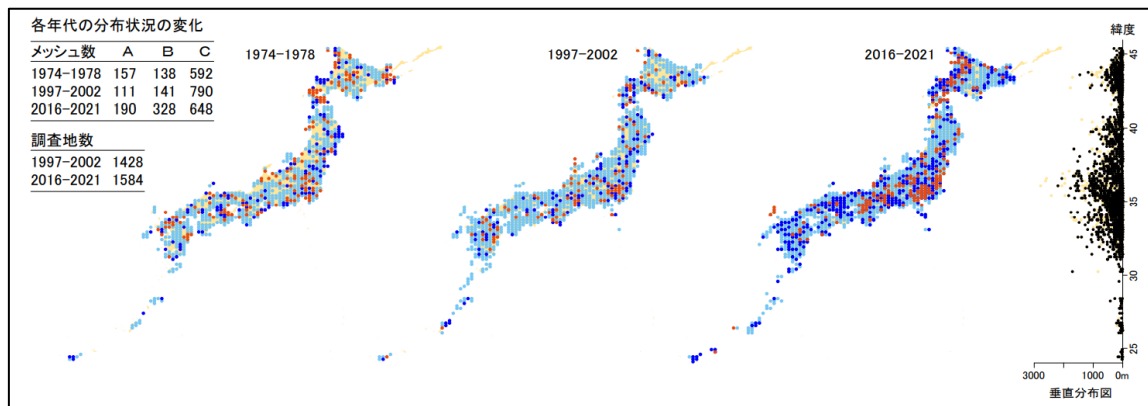


図 63 全国鳥類繁殖分布調査報告(2016-2021 年)分布図(ハシブトガラス)

【捕獲状況】

狩猟による捕獲が大半を占めているが、捕獲数は減少傾向にある。

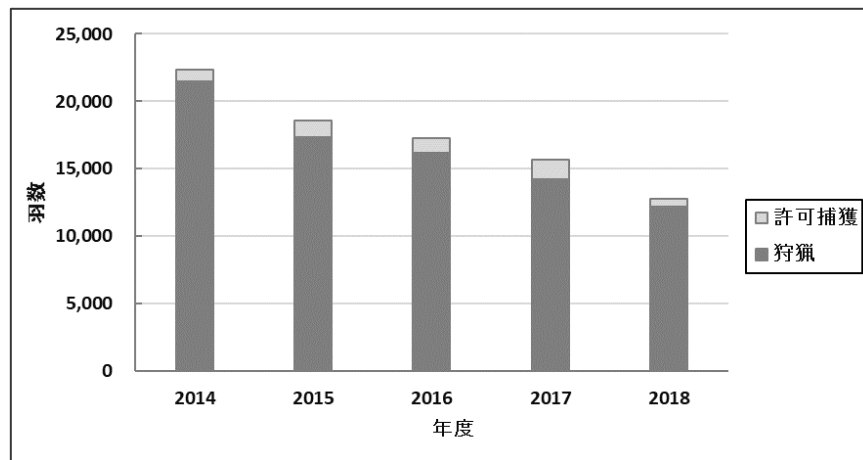


図 64 捕獲数の推移(ハシブトガラス)

【被害状況】

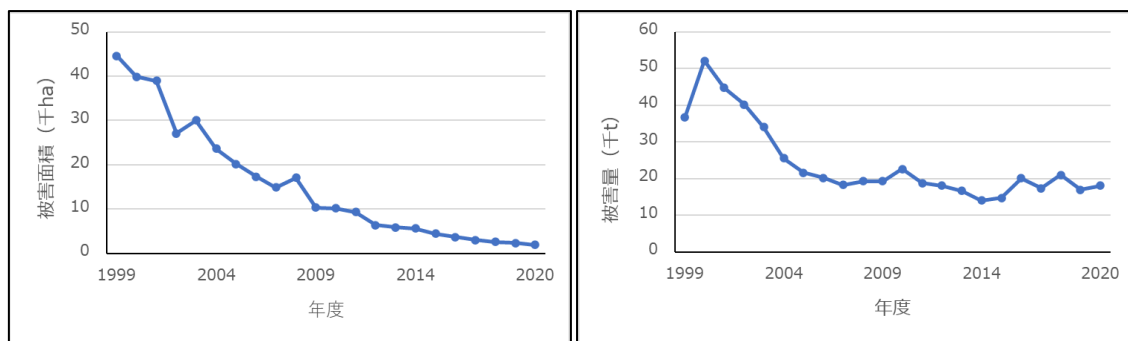


図 65 カラス類による農作物被害面積の推移(左)および農作物被害量の推移(右)

< 1 > タヌキ (*Nyctereutes procyonoides*)

【レッドデータブック】

環境省：－

地方版：－

【生息状況等】

第6回調査では11,474メッシュで確認されたが、2019年度から2021年にかけて行われたタヌキ等中大型哺乳類分布調査では11,357メッシュとなり、微減した。

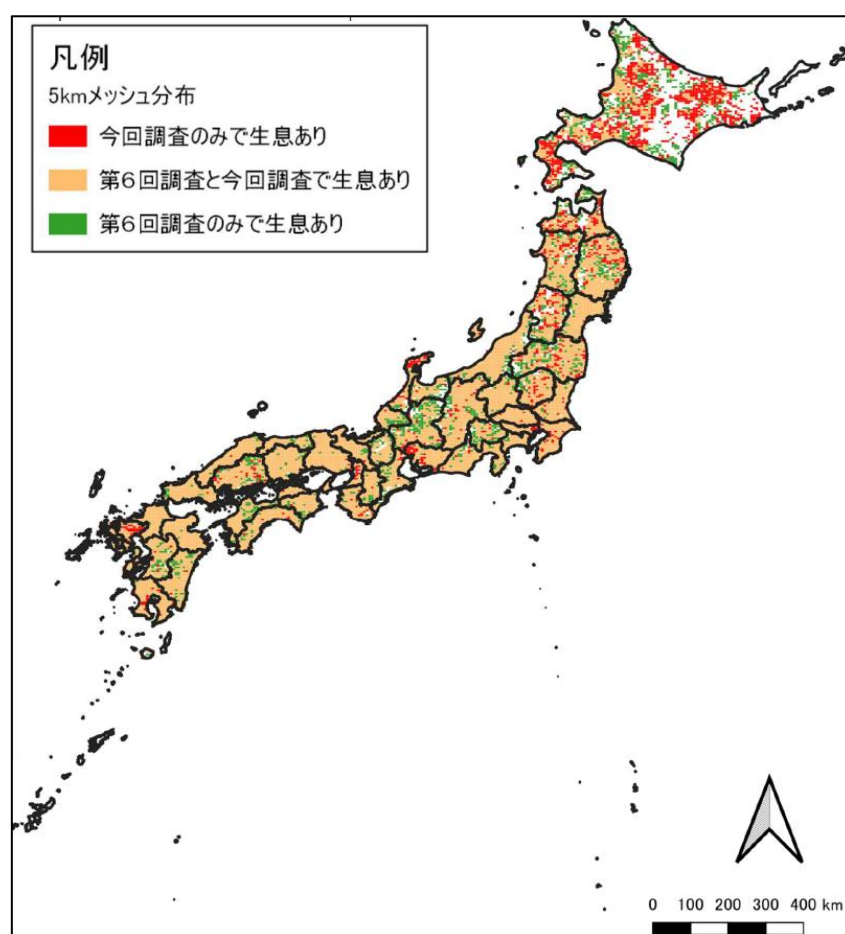


図 66 タヌキの第6回調査との比較図(5kmメッシュ)

【捕獲状況】

許可による捕獲が増加傾向にある。

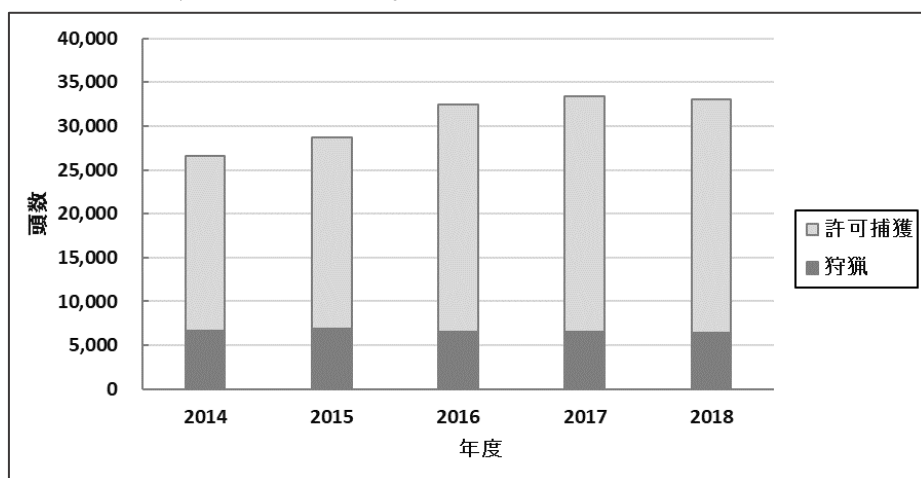


図 67 捕獲数の推移(タヌキ)

【被害状況】

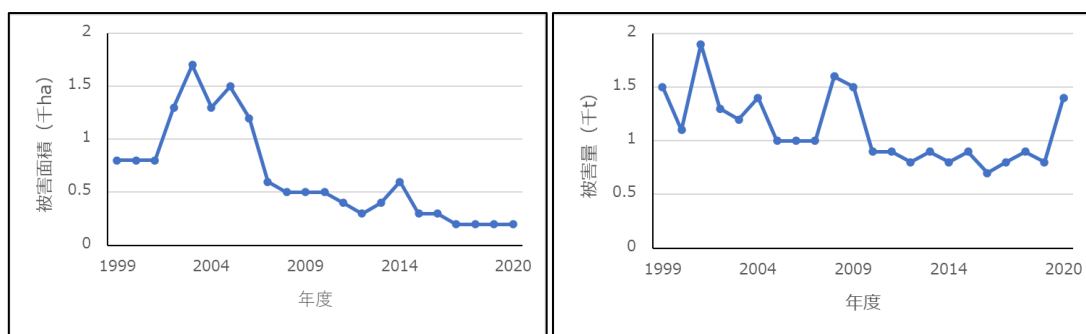


図 68 タヌキによる農作物被害面積の推移(左)および農作物被害量の推移(右)

＜２＞キツネ (*Vulpes vulpes*)

【レッドデータブック】

環境省：－

地方版：８都府県

表 17 地方版レッドデータブック掲載状況

カテゴリ	掲載県	県名
絶滅(EX) または野生絶滅(EW)		
絶滅危惧ⅠＡ・ⅠＢ類(CR, EN)	３	千葉、東京都、大阪府
絶滅危惧Ⅱ類(VU)	１	鹿児島
準絶滅危惧(NT)	３	神奈川、福岡、長崎
情報不足(DD)		
絶滅のおそれのある地域個体群(LP)		
その他県独自カテゴリ	１	京都府（要注目）

【生息状況等】

第6回調査では11,668メッシュで確認されたが、2019年度から2021年にかけて行われたタヌキ等中大型哺乳類分布調査では8,563メッシュとなり、減少した。

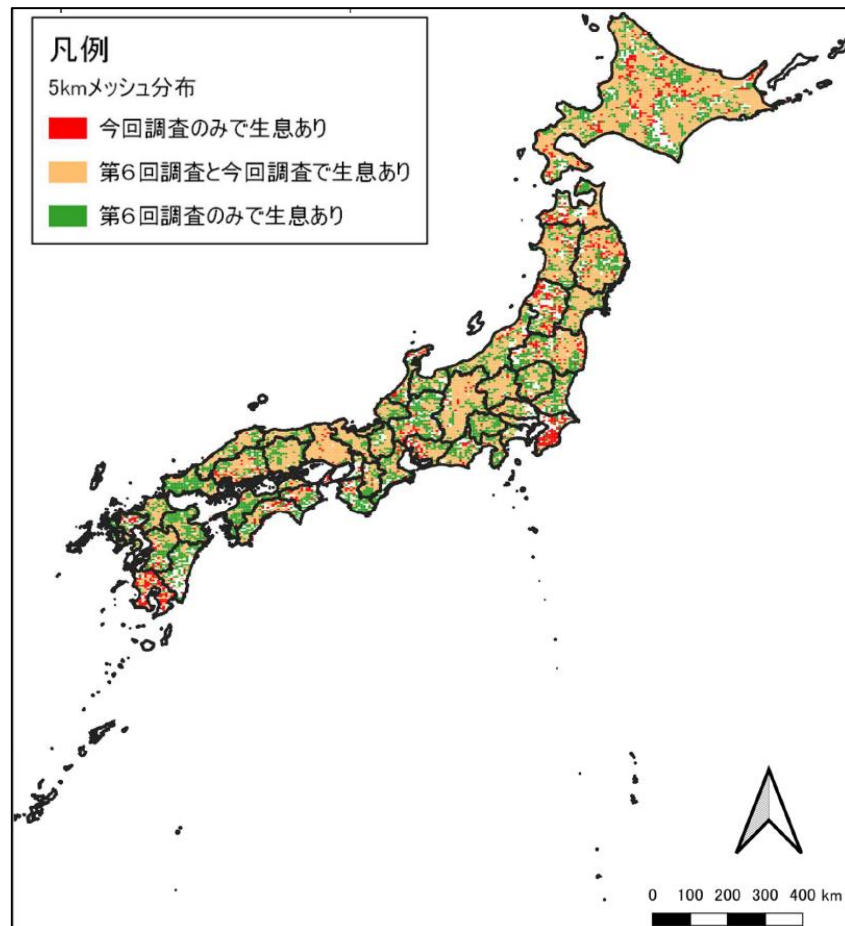


図 69 キツネの第6回調査との比較図(5kmメッシュ)

【捕獲状況】

許可による捕獲が大半を占め、捕獲数は10,000頭前後で推移している。

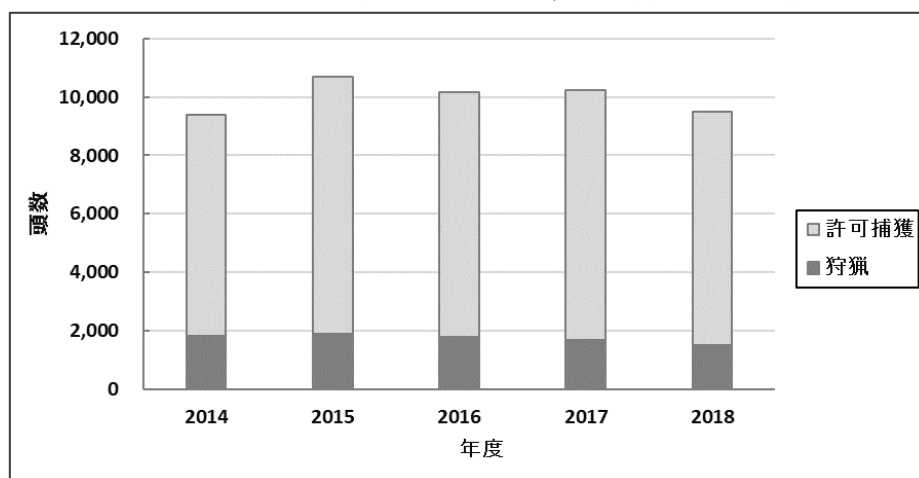


図 70 捕獲数の推移(キツネ)

< 3 > ノイヌ (*Canis familiaris*)

【レッドデータブック】

環境省：－

地方版：－

【生息状況等】

分布情報が不足しているが、東北の日本海側を除き、ほぼ全国的に分布が確認できる。



図 71 第6回基礎調査分布図(ノイヌ)

【捕獲状況】

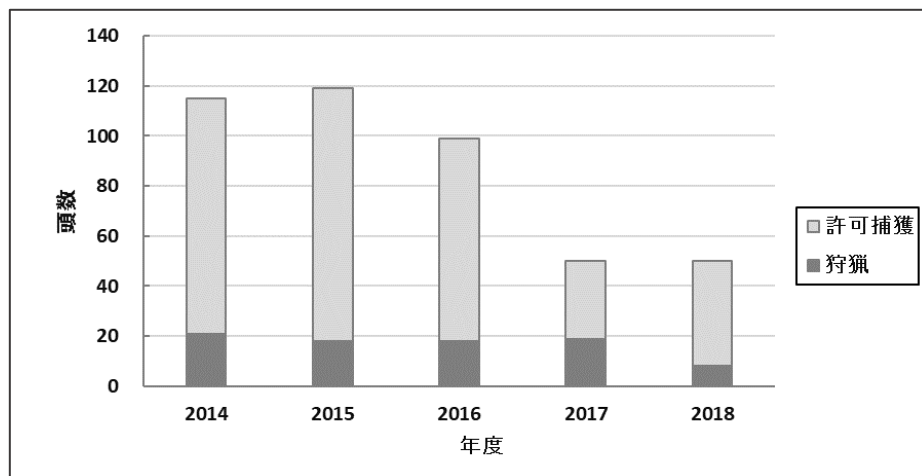


図 72 捕獲数の推移(ノイヌ)

< 4 > ノネコ (*Felis catus*)

【レッドデータブック】

環境省：－

地方版：－

【生息状況等】

分布情報が不足しているが、東北の一部を除き、ほぼ全国的に分布が確認できる。



図 73 第6回基礎調査分布図(ノネコ)

【捕獲状況】

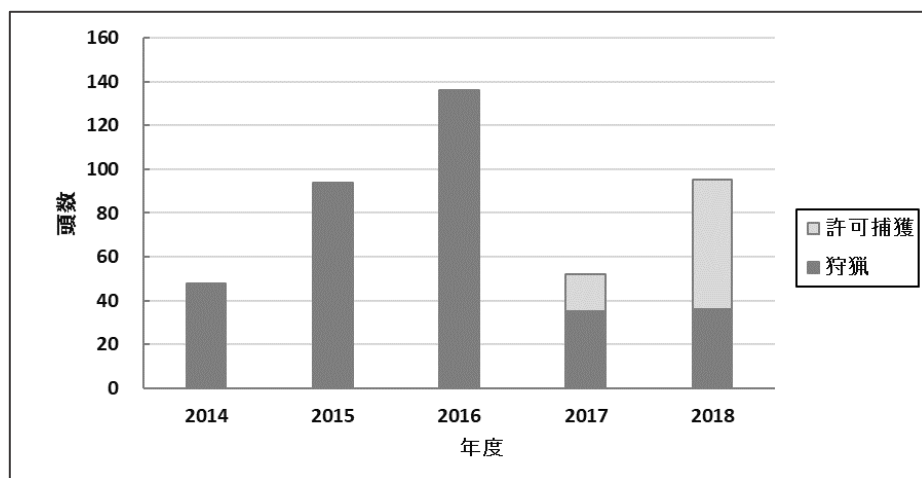


図 74 捕獲数の推移(ノネコ)

< 5 > テン (*Martes melampus*)

【レッドデータブック】

環境省：NT（亜種ツシマテンはNT であるが、ツシマテンは狩猟獣から除かれている）

地方版：4 都県

表 18 地方版レッドデータブック掲載状況

カテゴリ	掲載県	県名
絶滅(EX) または野生絶滅(EW)	1	東京都
絶滅危惧ⅠA・ⅠB類(CR, EN)		
絶滅危惧Ⅱ類(VU)		
準絶滅危惧(NT)	3	群馬、千葉、愛知
情報不足(DD)		
絶滅のおそれのある地域個体群(LP)		
その他県独自カテゴリ		

【生息状況等】

北海道や関東地方の平野部などでは疎であるが、ほぼ全国的に分布が見られる。



図 75 第6回基礎調査分布図(テン)

【捕獲状況】

許可による捕獲が減少傾向にある。

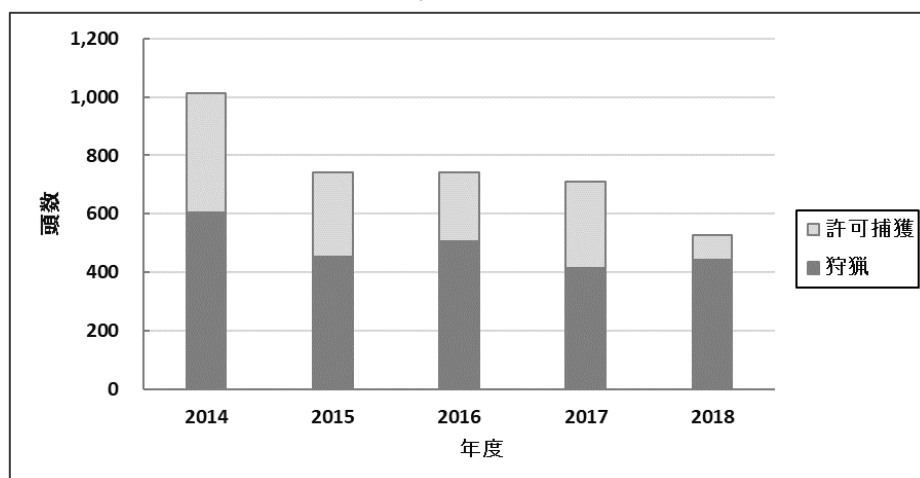


図 76 捕獲数の推移(テン)

< 6 > イタチ（オス）（*Mustela itatsi*）

【レッドデータブック】

環境省：－

地方版：18 都府県

表 19 地方版レッドデータブック掲載状況

カテゴリ	掲載県	県名
絶滅(EX) または野生絶滅(EW)		
絶滅危惧ⅠA・ⅠB類(CR, EN)		
絶滅危惧Ⅱ類(VU)	5	大阪府、奈良、岡山、佐賀、熊本
準絶滅危惧(NT)	9	東京都、神奈川、鳥取、島根、広島、香川、福岡、長崎、大分
情報不足(DD)	3	群馬、山梨、宮崎
絶滅のおそれのある地域個体群(LP)		
その他県独自カテゴリ	1	栃木県（要注目種）

【生息状況等】

北海道では疎であるが、本州、四国、九州と周辺の島嶼に分布が見られ、ほぼ全国的に生息している。



図 77 第6回基礎調査分布図(イタチ)

【捕獲状況】

許可による捕獲が近年減少傾向にある。

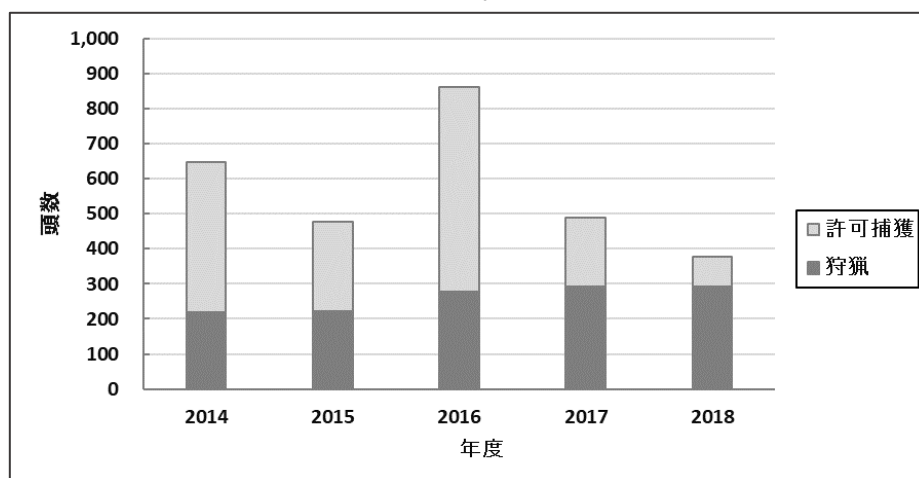


図 78 捕獲数の推移(イタチ)

< 7 > シベリアイタチ（オス）（*Mustela sibirica*）

【レッドデータブック】

環境省：NT

地方版：1 県

表 20 地方版レッドデータブック掲載状況

カテゴリ	掲載県	県名
絶滅(EX) または野生絶滅(EW)		
絶滅危惧ⅠA・ⅠB類(CR, EN)		
絶滅危惧Ⅱ類(VU)		
準絶滅危惧(NT)		
情報不足(DD)		
絶滅のおそれのある地域個体群(LP)	1	長崎
その他県独自カテゴリ		

【生息状況等】

日本における自然分布域は対馬のみであり、1949 年頃九州地方に侵入し、現在では、九州、四国、中部地方にまで分布が拡大している。



図 79 第6回基礎調査分布図(シベリアイタチ)

【捕獲状況】

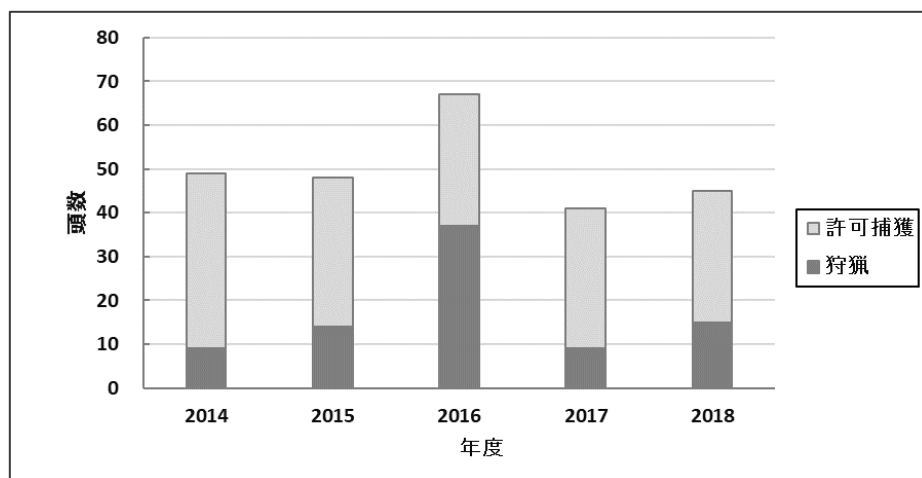


図 80 捕獲数の推移(シベリアイタチ)

< 8 > ミンク (*Mustela vison*)

【レッドデータブック】

環境省：－

地方版：－

【生息状況等】

原産地は北アメリカであるが、毛皮動物として養殖目的で北海道に導入された個体が、脱柵、野生化して全道に分布を広げている。



図 81 第6回基礎調査分布図(ミンク)

【捕獲状況】

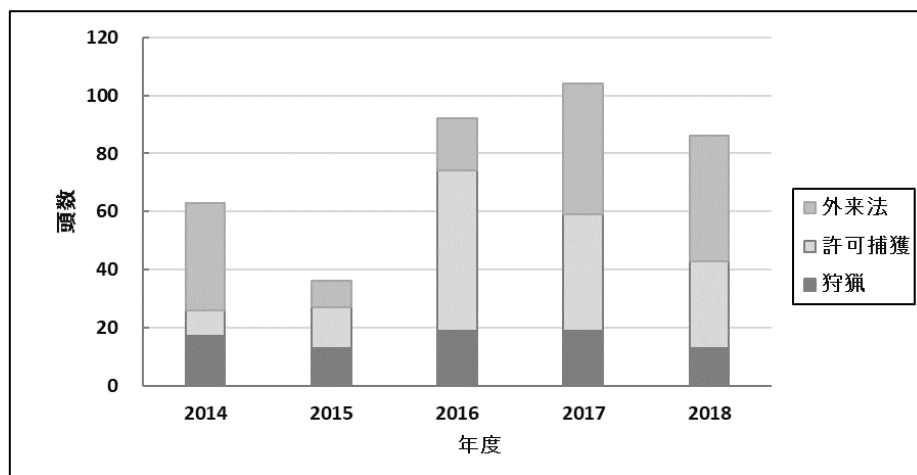


図 82 捕獲数の推移(ミンク)

< 9 > アナグマ (*Meles meles*)

【レッドデータブック】

環境省：－

地方版：6 都府県

表 21 地方版レッドデータブック掲載状況

カテゴリ	掲載県	県名
絶滅(EX) または野生絶滅(EW)	1	東京都
絶滅危惧ⅠA・ⅠB類(CR, EN)		
絶滅危惧Ⅱ類(VU)	1	千葉
準絶滅危惧(NT)	2	大阪府、兵庫
情報不足(DD)	2	群馬、愛知
絶滅のおそれのある地域個体群(LP)		
その他県独自カテゴリ		

【生息状況等】

第6回調査では5,061メッシュで生息が確認されたが、2019年度から2021年にかけて行われたタヌキ等中大型哺乳類分布調査では6,598メッシュとなり、増加した。

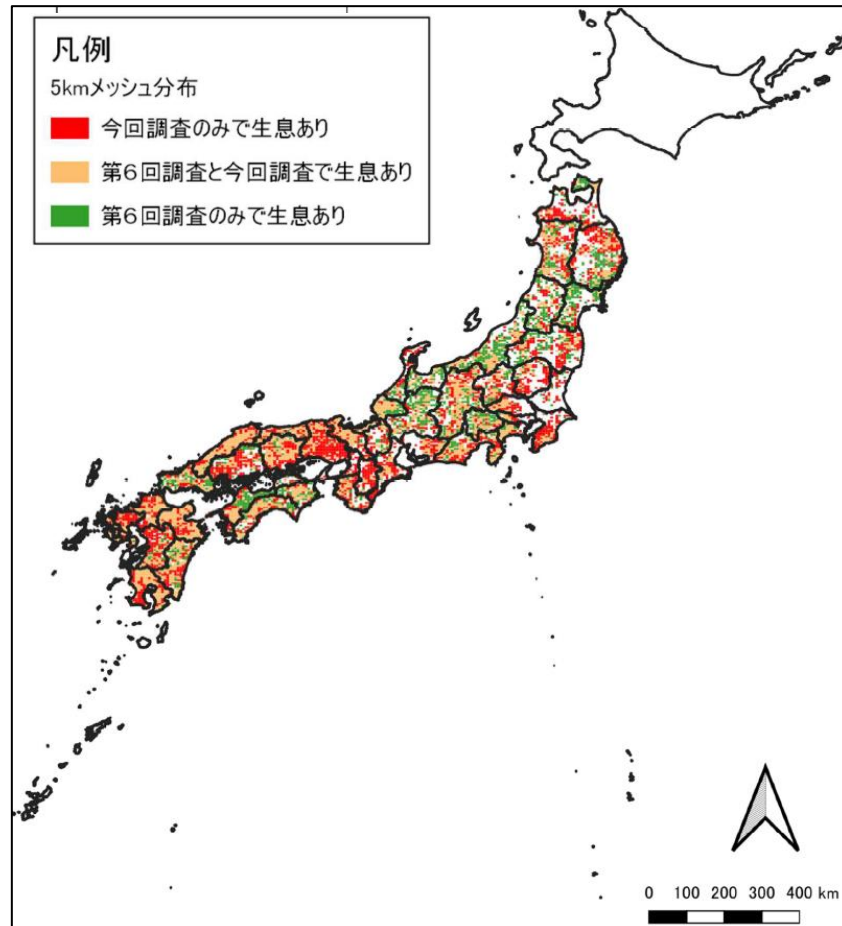


図 83 アナグマの第6回調査との比較図(5kmメッシュ)

【捕獲状況】

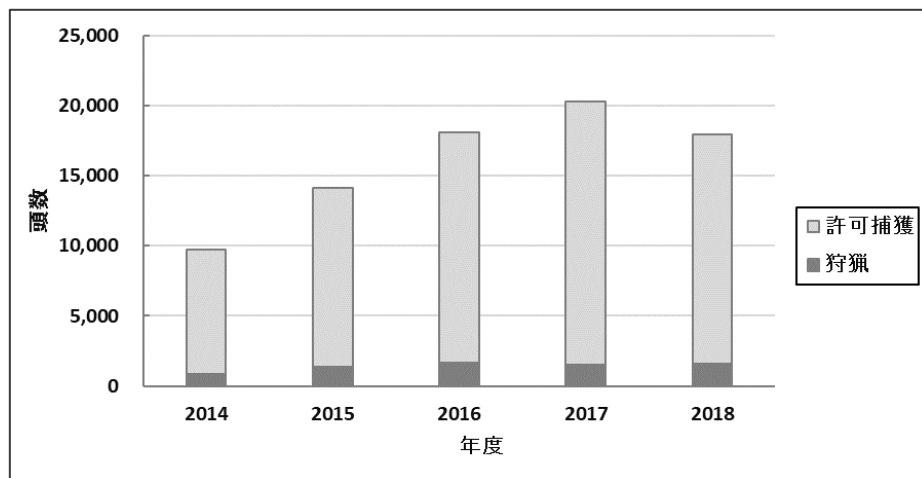


図 84 捕獲数の推移(アナグマ)

【資源利用状況】

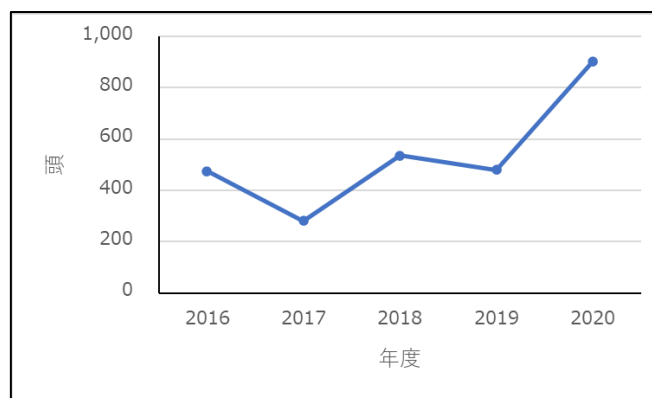


図 85 食肉処理施設での解体頭数の推移(アナグマ)

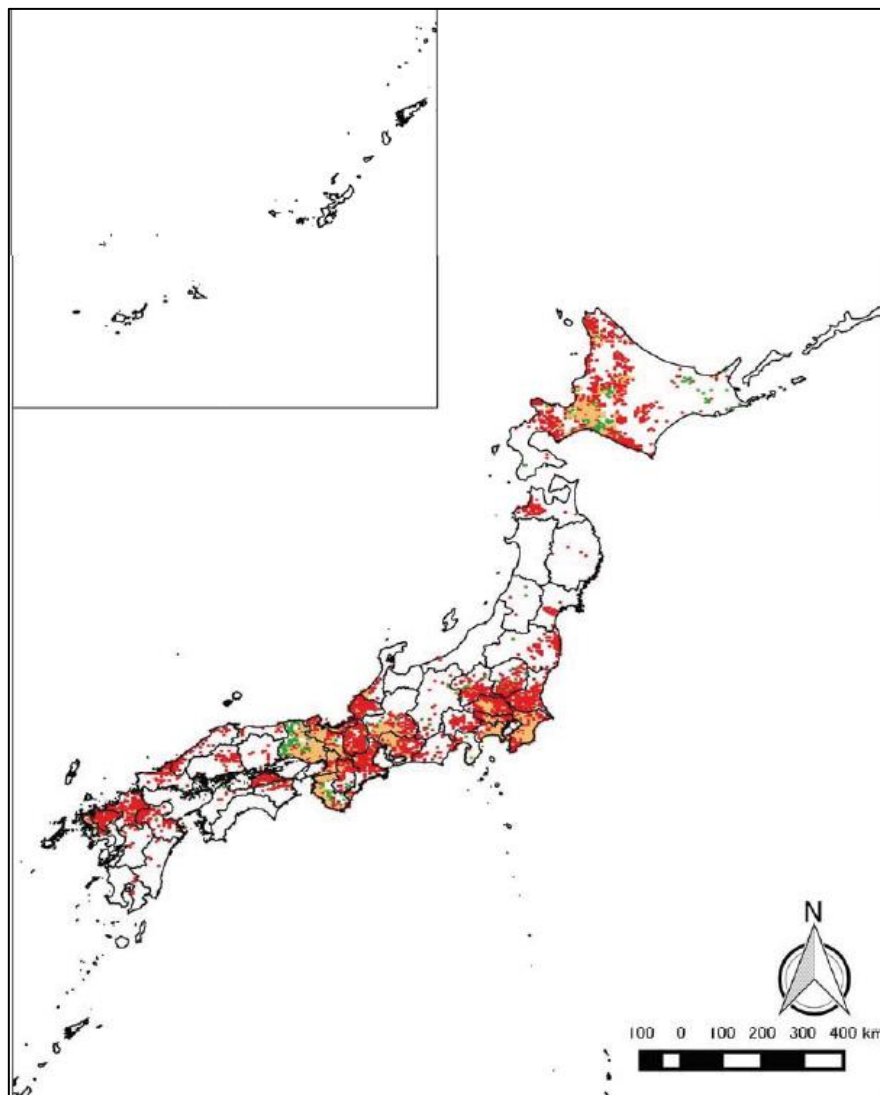
<10>アライグマ (*Procyon lotor*)

【レッドデータブック】

環境省：－

地方版：－

【生息状況等】 近年急速に分布域を拡大している。



凡例

アライグマの分布情報が得られた5kmメッシュ

■ 第7回調査(2006年度)のみで生息を確認(260メッシュ)

■ 第7回調査(2006年度)とH29年度要注意鳥獣業務(2017年度)で生息を確認(1128メッシュ)

■ H29年度要注意鳥獣業務(2017年度)のみで生息を確認(2734メッシュ)

図 86 アライグマの分布情報が得られた5kmメッシュ

【捕獲状況】

許可、外来生物法による捕獲が増加傾向にある。

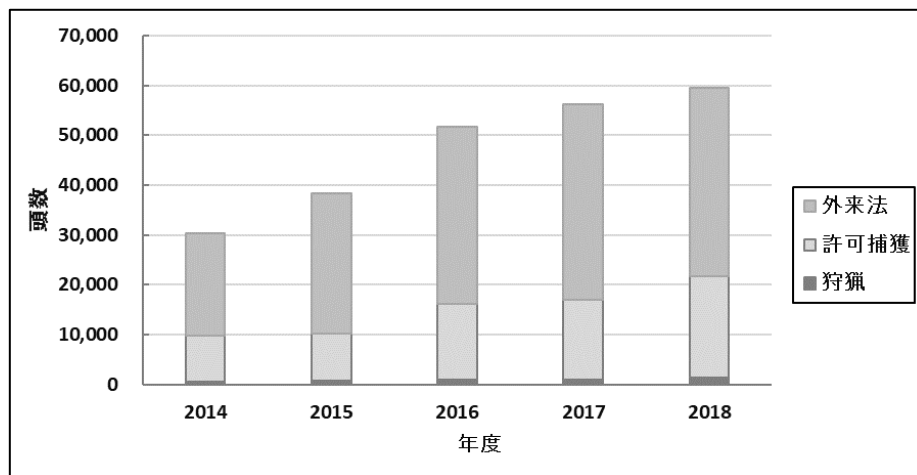


図 87 捕獲数の推移(アライグマ)

【被害状況】

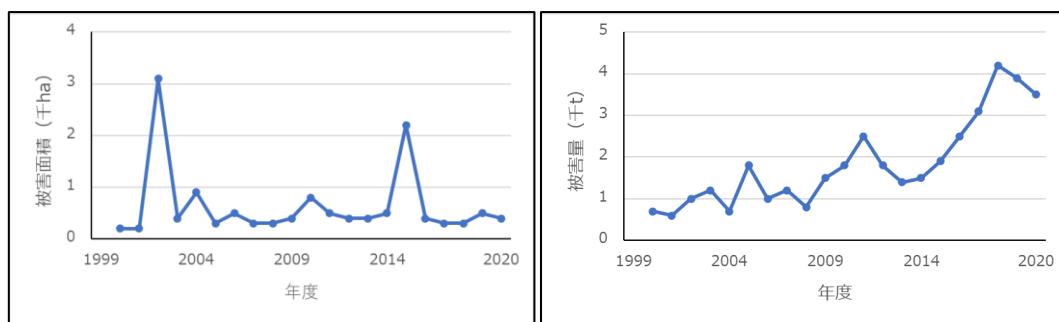


図 88 アライグマによる農作物被害面積の推移(左)および農作物被害量の推移(右)

<11>ヒグマ (*Ursus arctos*)

【レッドデータブック】

環境省：LP

地方版：1 道

表 22 地方版レッドデータブック掲載状況

カテゴリ	掲載県	県名
絶滅(EX) または野生絶滅(EW)		
絶滅危惧Ⅰ類(CR, EN)		
絶滅危惧Ⅱ類(VU)		
準絶滅危惧(NT)		
情報不足(DD)		
絶滅のおそれのある地域個体群(LP)	1	北海道
その他県独自カテゴリ		

【生息状況等】

第6回基礎調査では2, 223 メッシュであったが、平成30年度中大型哺乳類分布調査では2, 872 メッシュに増加した。



図 89 第6回基礎調査分布図(ヒグマ)

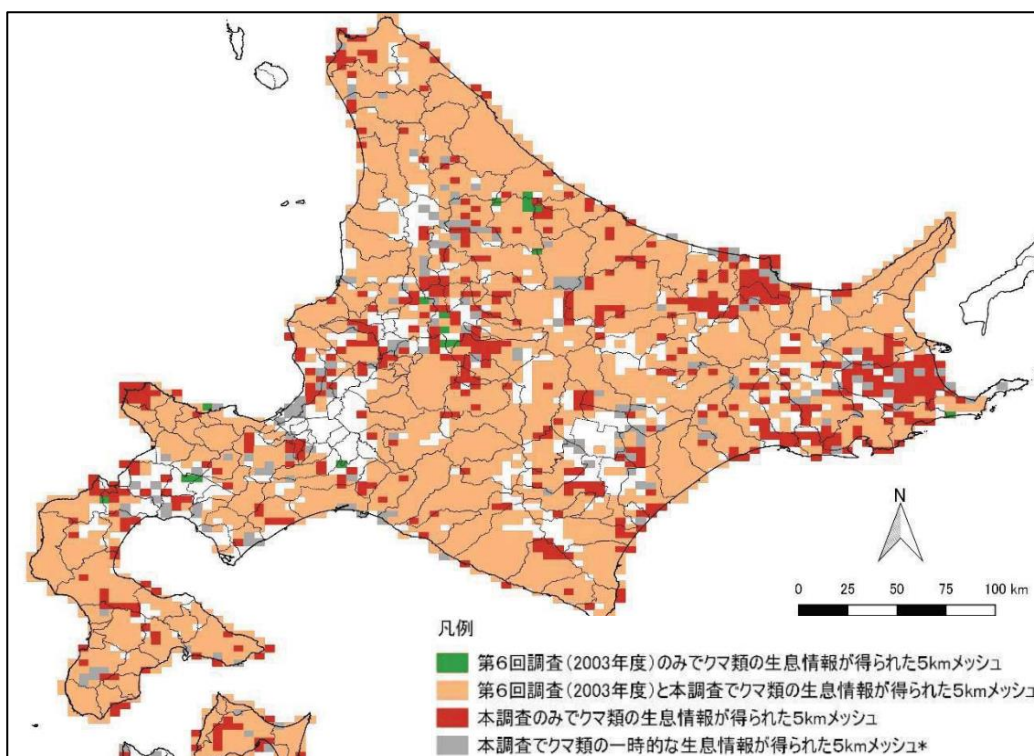


図 90 クマ類の生息情報が得られた5kmメッシュ(北海道地方)

【捕獲状況】

狩猟による捕獲は 100 頭以下で推移しているが、許可による捕獲が増加傾向にある。

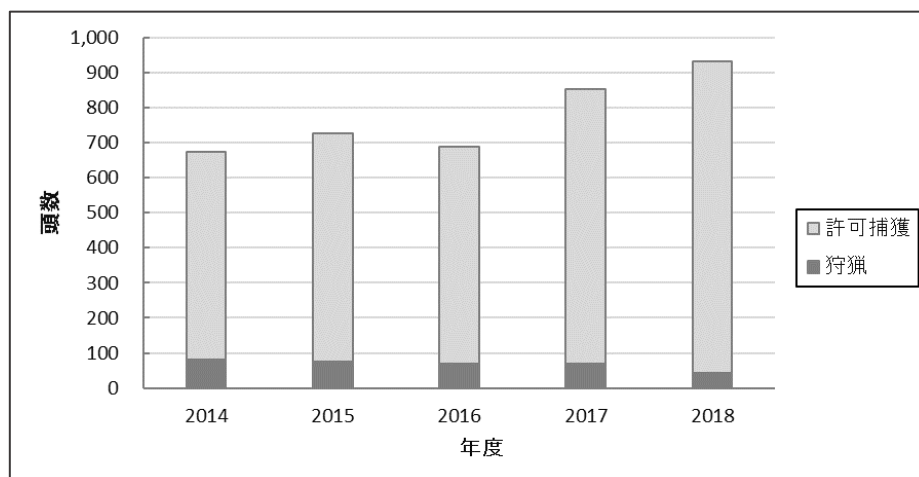


図 91 捕獲数の推移(ヒグマ)

【被害状況】

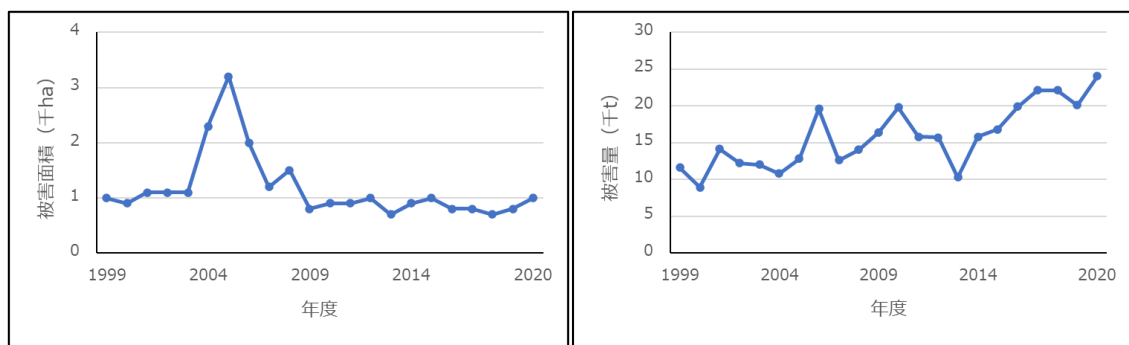


図 92 クマ類による農作物被害面積の推移(左)および農作物被害量の推移(右)

表 23 ヒグマによる人身被害件数の推移

年度	件数	被害人数	死亡者人数
2017	4	4	1
2018	3	3	0
2019	3	3	0
2020	2	2	0
2021	8	12	4

※ 2021 年度の件数は、2021 年 12 月末の暫定値である。

【資源利用状況】

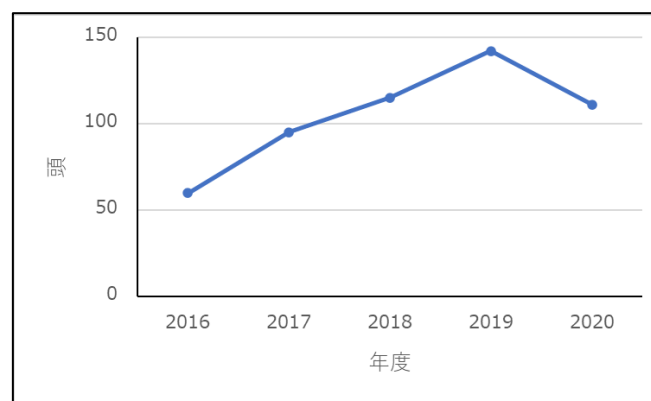


図 93 食肉処理施設での解体頭数の推移(ヒグマ)

<12>ツキノワグマ (*Ursus thibetanus*)

【レッドデータブック】

環境省：LP

地方版：30 都府県

表 24 地方版レッドデータブック掲載状況

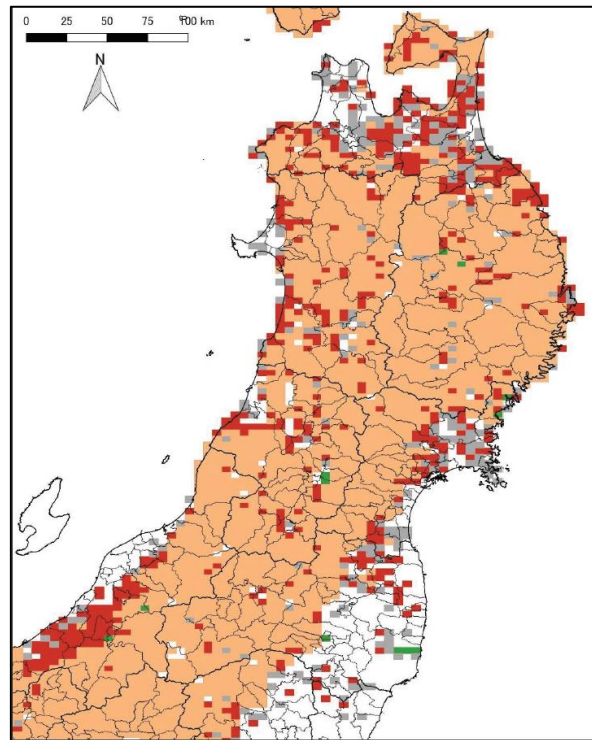
カテゴリ	掲載県	県名
絶滅(EX) または野生絶滅(EW)	4	熊本、大分、宮崎、鹿児島
絶滅危惧ⅠA・ⅠB類(CR, EN)	11	神奈川、愛知、三重、奈良、和歌山、島根、岡山、広島、徳島、愛媛、高知
絶滅危惧Ⅱ類(VU)	4	東京都、兵庫、鳥取、山口
準絶滅危惧(NT)	2	埼玉、滋賀、
情報不足(DD)	3	岩手、茨城、群馬
絶滅のおそれのある地域個体群(LP)	3	青森、長野、静岡
その他県独自カテゴリ	3	秋田県（継続観測種）、山梨（要注目）、京都府（要注目種）

【生息状況等】

第6回基礎調査では4,512メッシュで生息が確認されたが、平成30年度中大型哺乳類分布調査では6,486メッシュで生息が確認された。四国地方では微減となったものの、全国的に増加している。



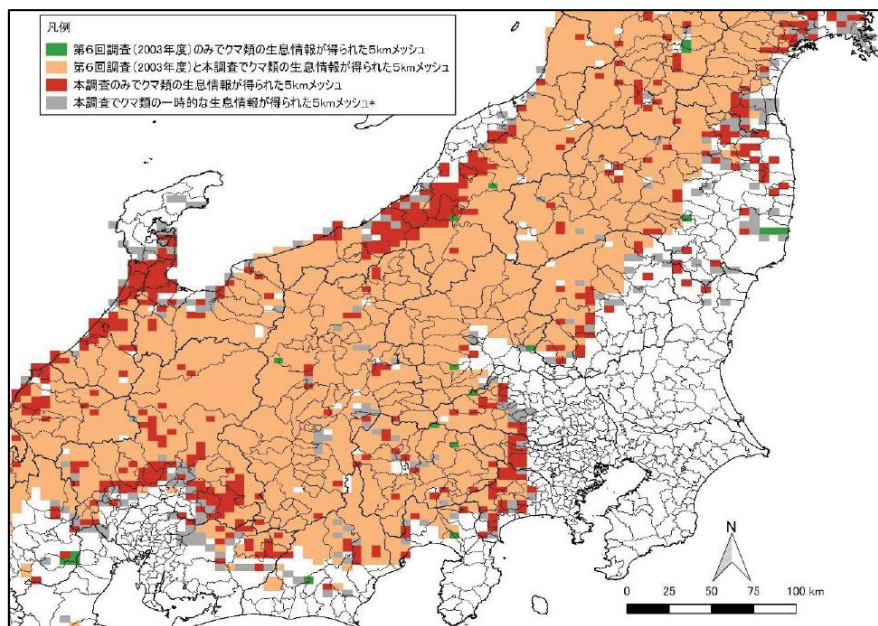
図 94 第6回基礎調査分布図(ツキノワグマ)



凡例

- 第6回調査(2003年度)のみでクマ類の生息情報が得られた5kmメッシュ
- 第6回調査(2003年度)と本調査でクマ類の生息情報が得られた5kmメッシュ
- 本調査のみでクマ類の生息情報が得られた5kmメッシュ
- 本調査でクマ類の一時的な生息情報が得られた5kmメッシュ*

図 95 クマ類の生息情報が得られた5kmメッシュ(東北地方)



凡例

- 第6回調査(2003年度)のみでクマ類の生息情報が得られた5kmメッシュ
- 第6回調査(2003年度)と本調査でクマ類の生息情報が得られた5kmメッシュ
- 本調査のみでクマ類の生息情報が得られた5kmメッシュ
- 本調査でクマ類の一時的な生息情報が得られた5kmメッシュ*

図 96 クマ類の生息情報が得られた5kmメッシュ(関東地方)

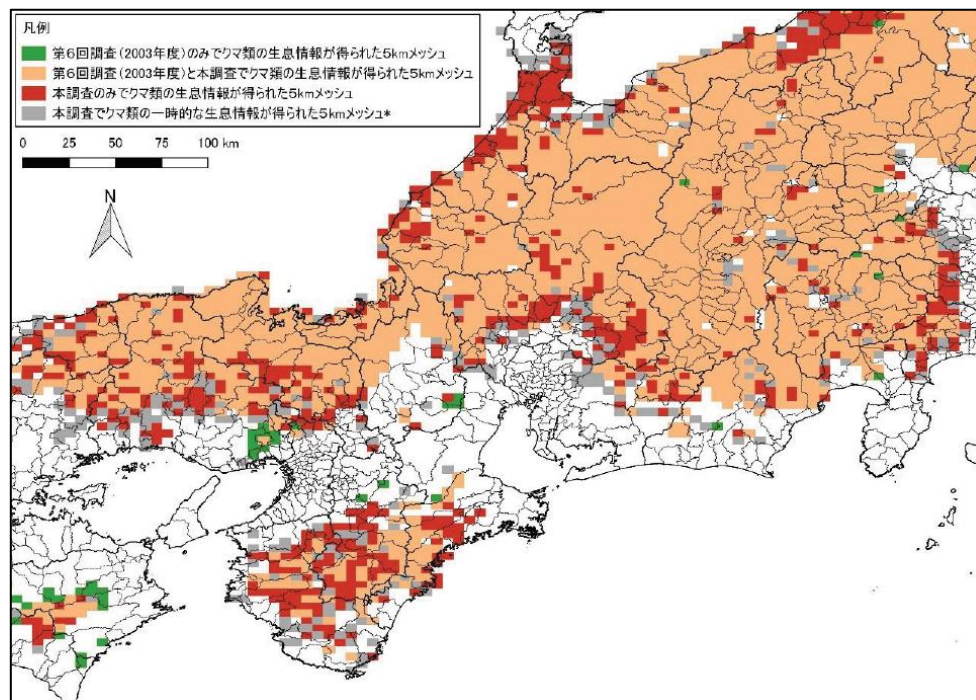


図 97 クマ類の生息情報が得られた5kmメッシュ(中部・近畿地方)

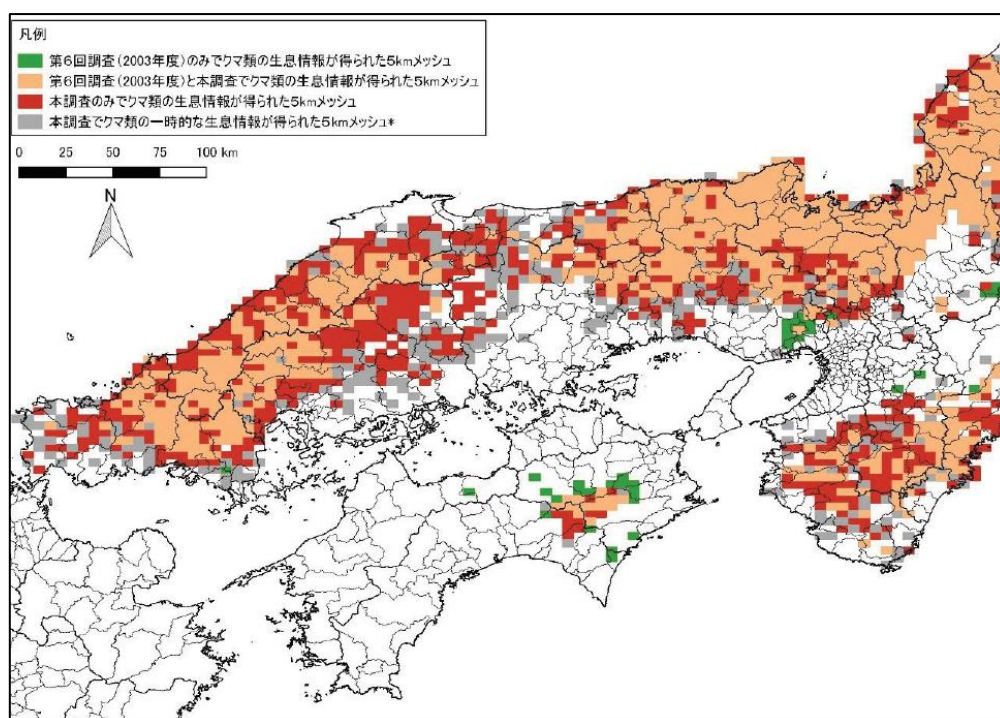


図 98 クマ類の生息情報が得られた5kmメッシュ(中国・四国地方)

【捕獲状況】

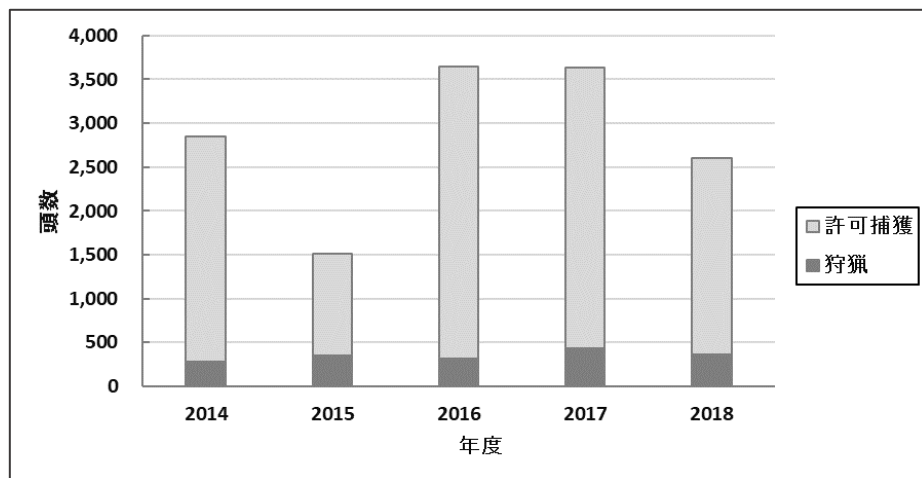


図 99 捕獲数の推移(ツキノワグマ)

【被害状況】

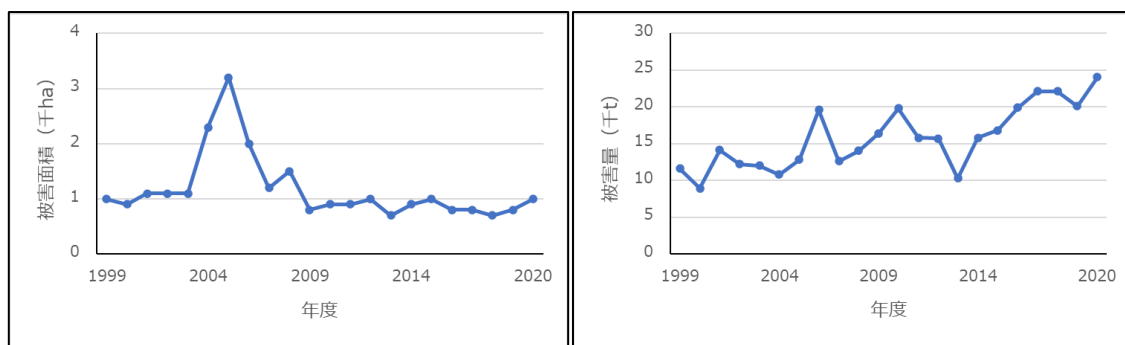


図 100 クマ類による農作物被害面積の推移(左)および農作物被害量の推移(右)

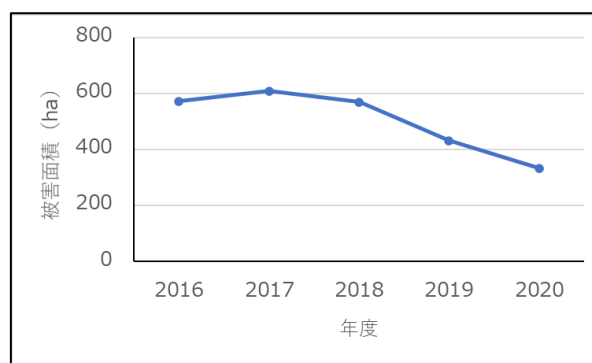


図 101 ツキノワグマによる森林被害面積の推移

表 25 ツキノワグマによる人身被害件数の推移

年度	件数	被害人数	死亡者人数
2017	96	104	1
2018	48	50	0
2019	137	154	1
2020	141	156	2
2021	70	72	1

※ 2021 年度の件数は、2021 年 12 月末の暫定値である。

【資源利用状況】

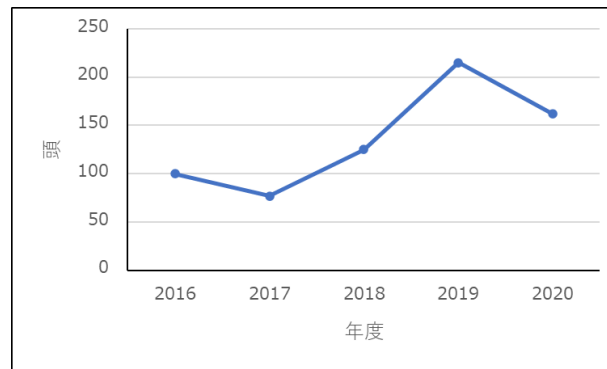


図 102 食肉処理施設での解体頭数の推移(ツキノワグマ)

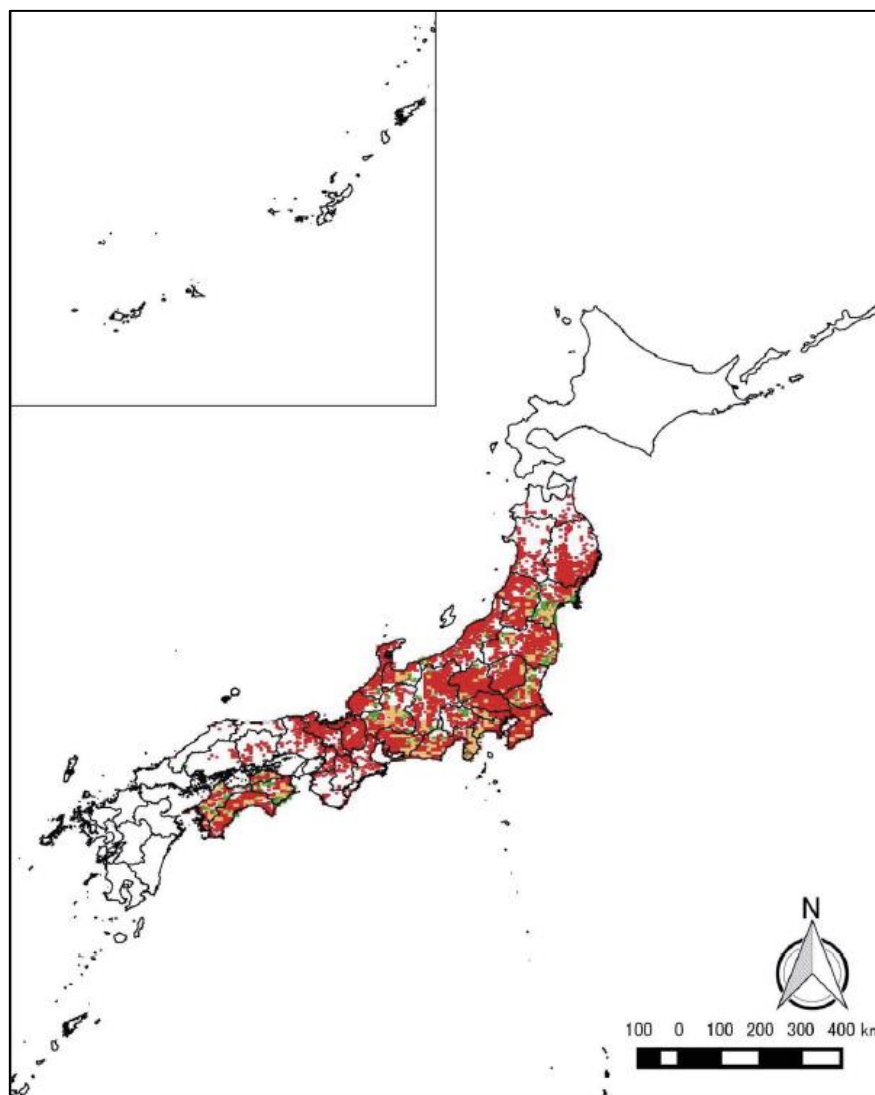
<13>ハクビシン (*Paguma larvata*)

【レッドデータブック】

環境省： —

地方版： —

【生息状況等】 本州に広く分布している。



凡例

ハクビシンの分布情報が得られた5kmメッシュ

■ 第5回調査(2002年度)のみで生息を確認(368メッシュ)

■ 第5回調査(2002年度)とH29年度要注意鳥獣業務(2017年度)で生息を確認(848メッシュ)

■ H29年度要注意鳥獣業務(2017年度)のみで生息を確認(4204メッシュ)

図 103 ハクビシンの分布情報が得られた5kmメッシュ

【捕獲状況】

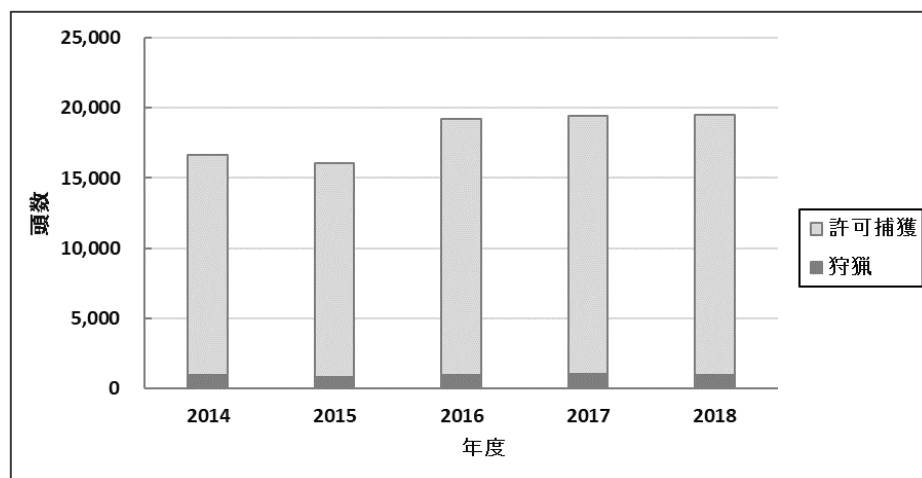


図 104 捕獲数の推移(ハクビシン)

【被害状況】

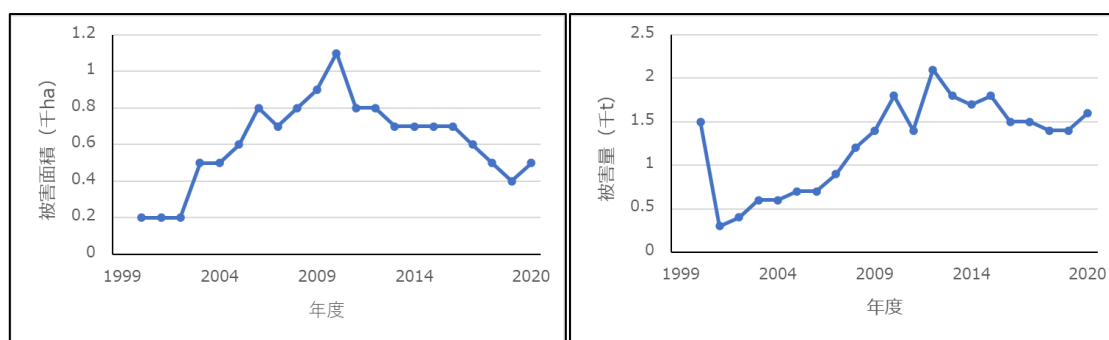


図 105 ハクビシンによる農作物被害面積の推移(左)および農作物被害量(右)の推移

<14>イノシシ (*Sus scrofa*)

【レッドデータブック】

環境省：LP（徳之島のリュウキュウイノシシ）

地方版：6 都県

表 26 地方版レッドデータブック掲載状況

カテゴリ	掲載県	県名
絶滅(EX) または野生絶滅(EW)	2	東京都、山形
絶滅危惧ⅠA・ⅠB類(CR, EN)		
絶滅危惧Ⅱ類(VU)	1	沖縄
準絶滅危惧(NT)		
情報不足(DD)	1	青森
絶滅のおそれのある地域個体群(LP)	1	鹿児島（亜種リュウキュウイノシシ（徳之島地域個体群）、亜種ニホンイノシシ甕島列島地域個体群）
その他県独自カテゴリ	1	秋田県（継続観測種）

【生息状況等】 分布域は拡大しているが、推定個体数は減少傾向にある。

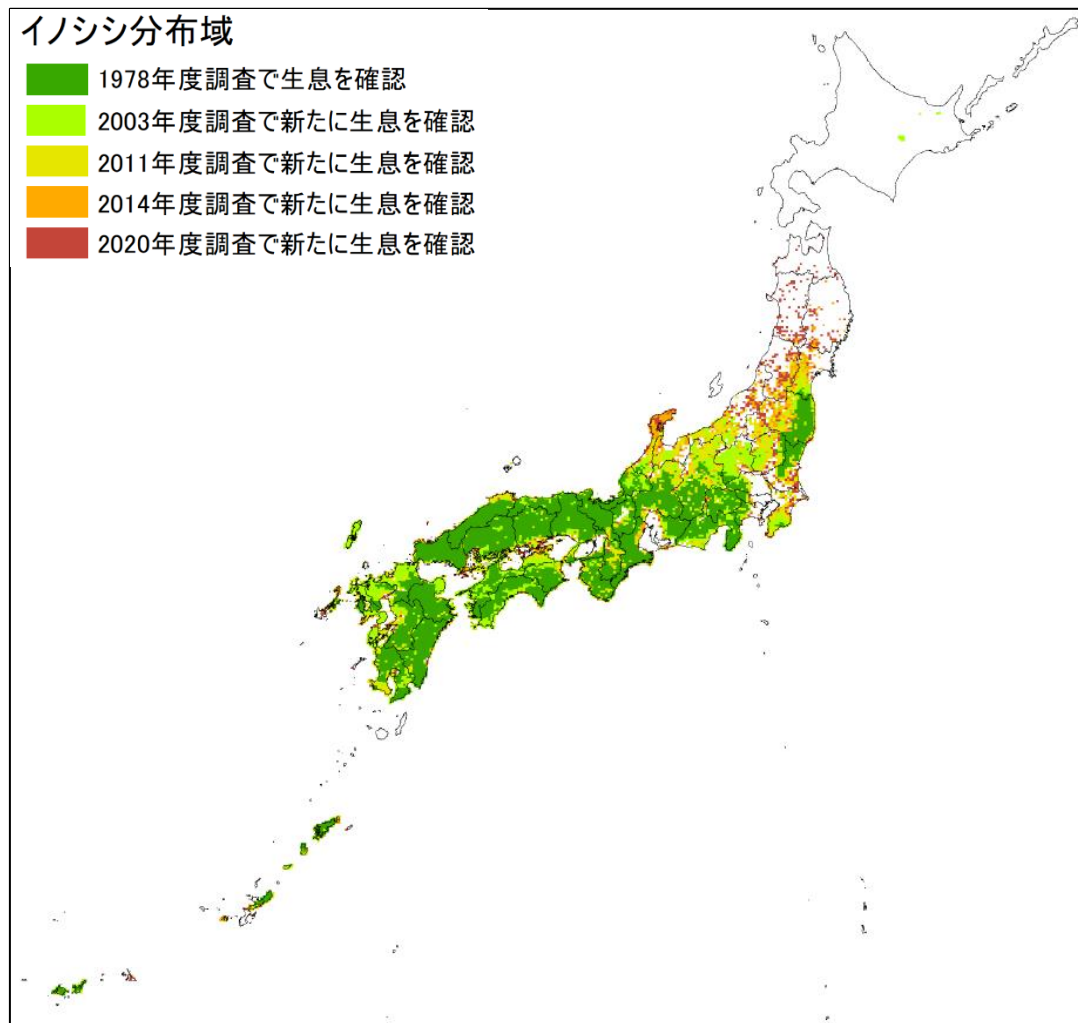


図 106 イノシシ生息分布図(令和2年度生息分布調査)

【捕獲状況】

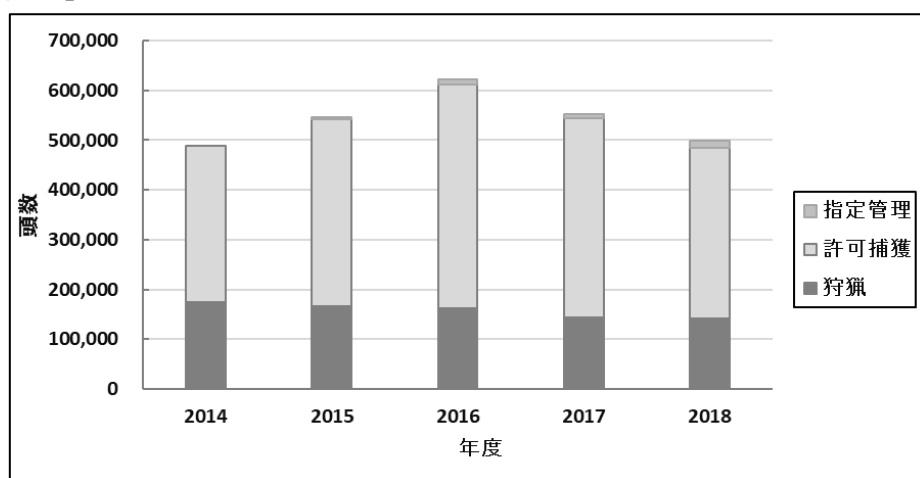


図 107 イノシシの捕獲数の推移

【被害状況】

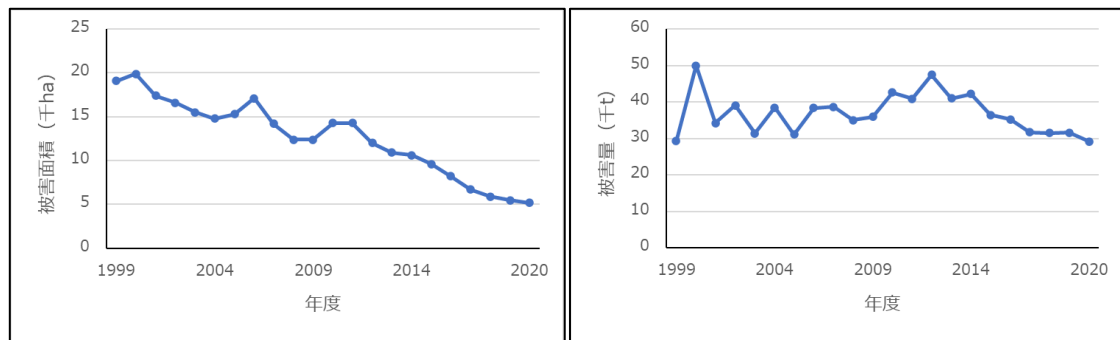


図 108 イノシシによる農作物被害面積の推移(左)および農作物被害量(右)の推移

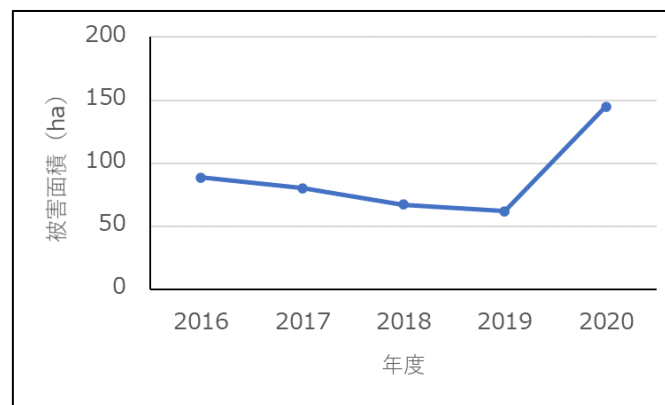


図 109 イノシシによる森林被害面積の推移

表 27 イノシシによる人身被害件数の推移

年度	件数	被害人数	死亡者人数
2017	55	76	0
2018	50	52	2
2019	59	75	0
2020	51	59	0
2021	34	43	1

※ 2021 年度の件数は、2021 年 11 月末の暫定値である。

【資源利用状況】

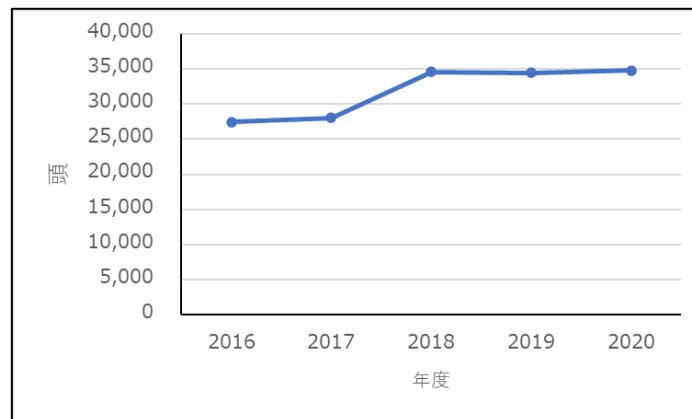


図 110 食肉処理施設での解体頭数の推移(イノシシ)

<15>ニホンジカ (*Cervus nippon*)

【レッドデータブック】

環境省：LP

地方版：6 県

表 28 地方版レッドデータブック掲載状況

カテゴリ	掲載県	県名
絶滅(EX) または野生絶滅(EW)	2	山形、佐賀
絶滅危惧ⅠA・ⅠB類(CR, EN)		
絶滅危惧Ⅱ類(VU)		
準絶滅危惧(NT)		
情報不足(DD)	1	青森
絶滅のおそれのある地域個体群(LP)	1	鹿児島（馬毛島のニホンジカ）
その他県独自カテゴリ	2	秋田（継続観測種）、奈良（郷土種）

【生息状況等】 分布域は拡大しているが、推定個体数は減少傾向にある。

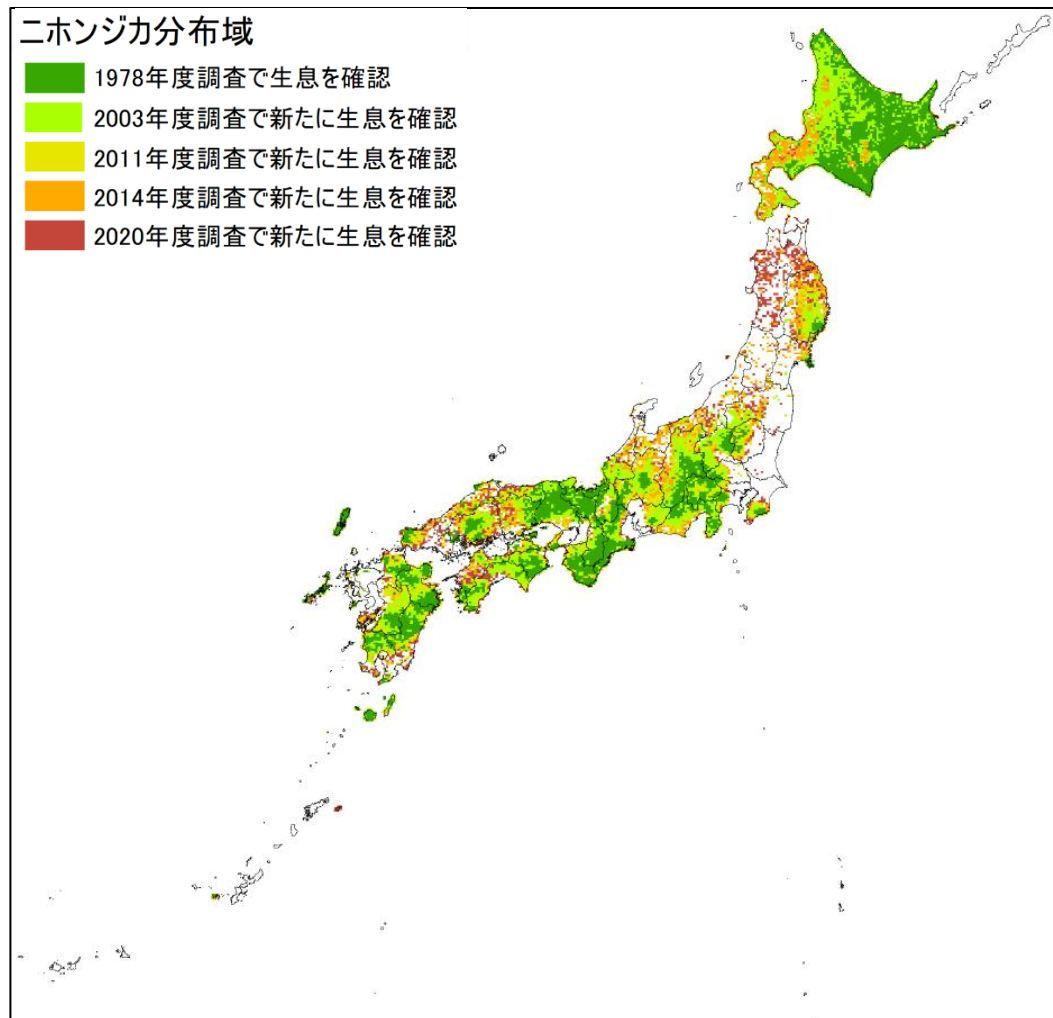


図 111 ニホンジカ生息分布図(令和2年度生息分布調査)

【捕獲状況】

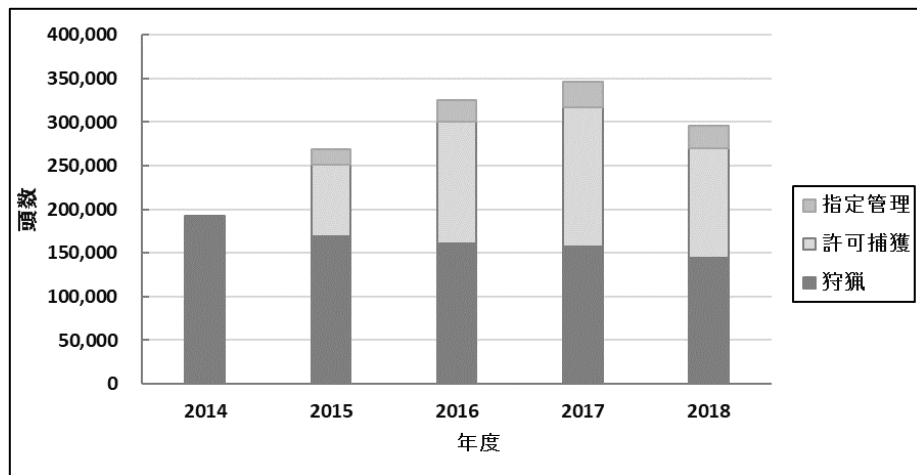


図 112 ニホンジカの捕獲数の推移

【被害状況】

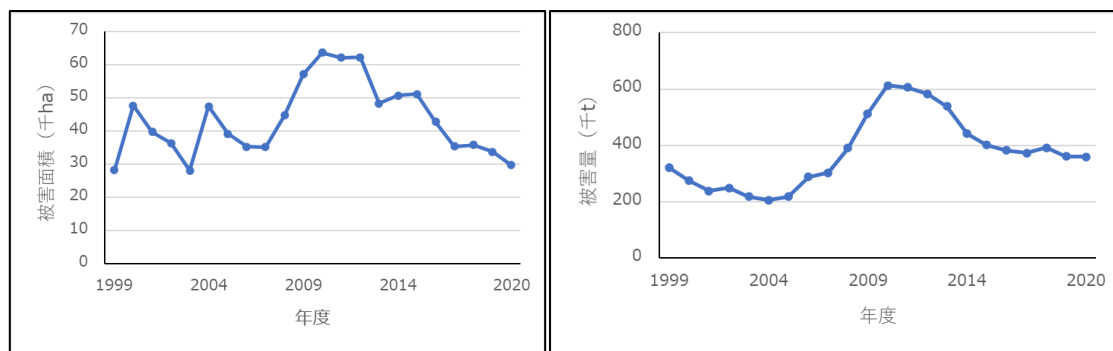


図 113 ニホンジカによる農作物被害面積の推移(左)および農作物被害量(右)の推移

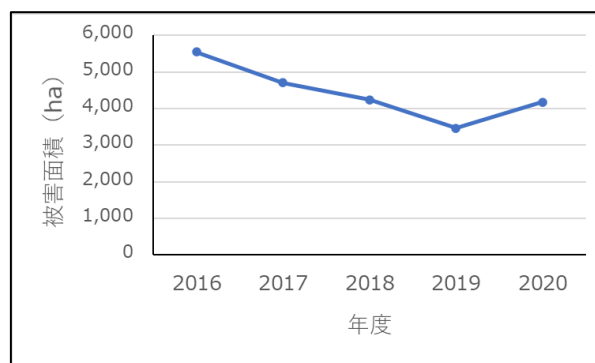


図 114 ニホンジカによる森林被害面積の推移

【資源利用状況】

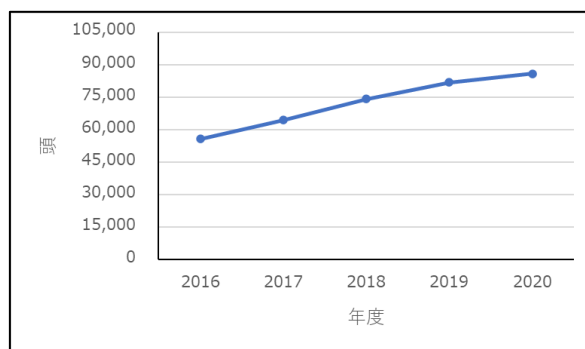


図 115 食肉処理施設での解体頭数の推移(ニホンジカ)

<16>クリハラリス (*Callosciurus erythraeus*)

【レッドデータブック】

環境省：－

地方版：－

【生息状況等】 分布情報は不足している。



図 116 第6回基礎調査分布図(クリハラリス)

【捕獲状況】

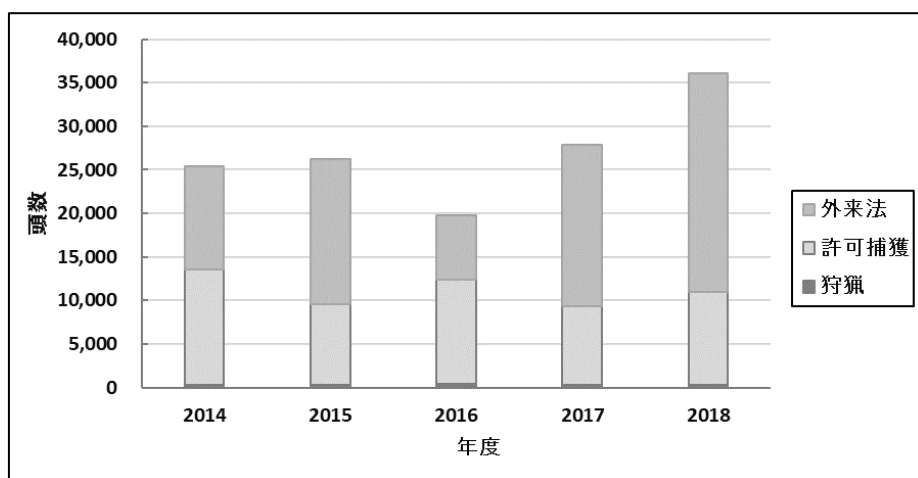


図 117 クリハラリスの捕獲数の推移

<17>シマリス (*Tamias sibiricus*)

【レッドデータブック】

環境省：DD(亜種エゾシマリス)

地方版：ー

【生息状況等】 分布情報は不足している。



図 118 第6回基礎調査分布図(シマリス)

【捕獲状況】

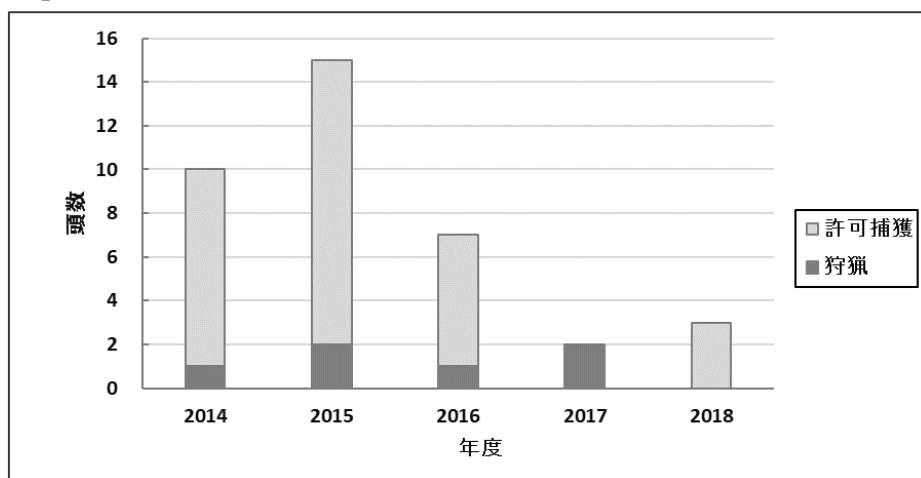


図 119 シマリスの捕獲数の推移

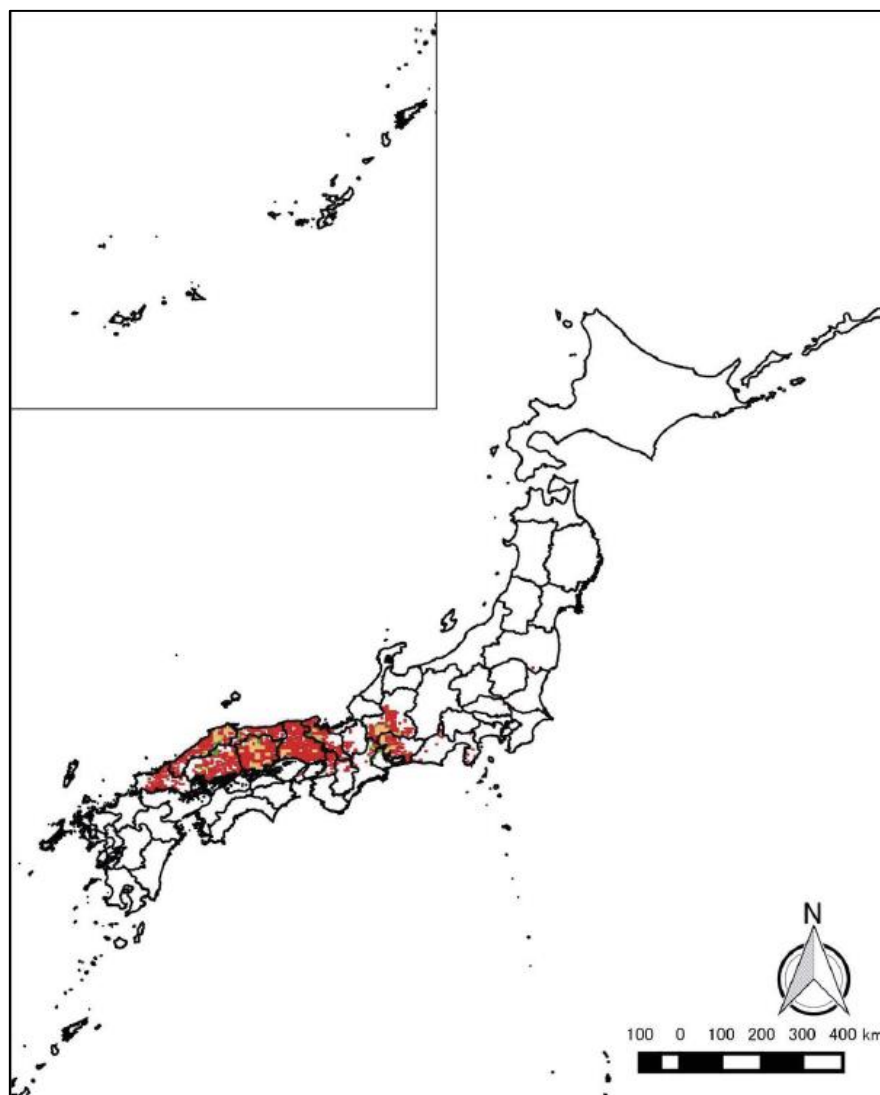
<18>ヌートリア (*Myocastor coypus*)

【レッドデータブック】

環境省：－

地方版：－

【生息状況等】 東海地方から西日本を中心に分布が拡大している。



凡例

ヌートリアの分布情報が得られた5kmメッシュ

■ 第5回調査(2002年度)のみで生息を確認(69メッシュ)

■ 第5回調査(2002年度)とH29年度要注意鳥獣業務(2017年度)で生息を確認(247メッシュ)

■ H29年度要注意鳥獣業務(2017年度)のみで生息を確認(1297メッシュ)

図 120 ヌートリアの分布情報が得られた5kmメッシュ

【捕獲状況】

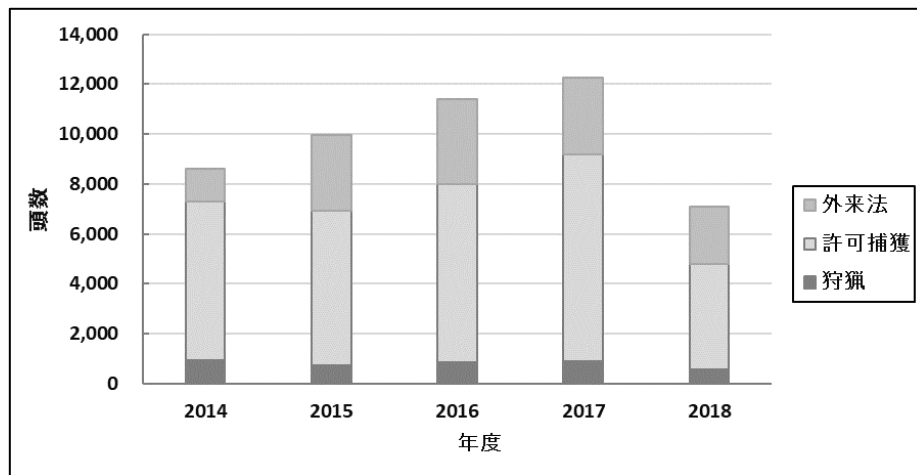


図 121 ヌートリアの捕獲数の推移

【被害状況】

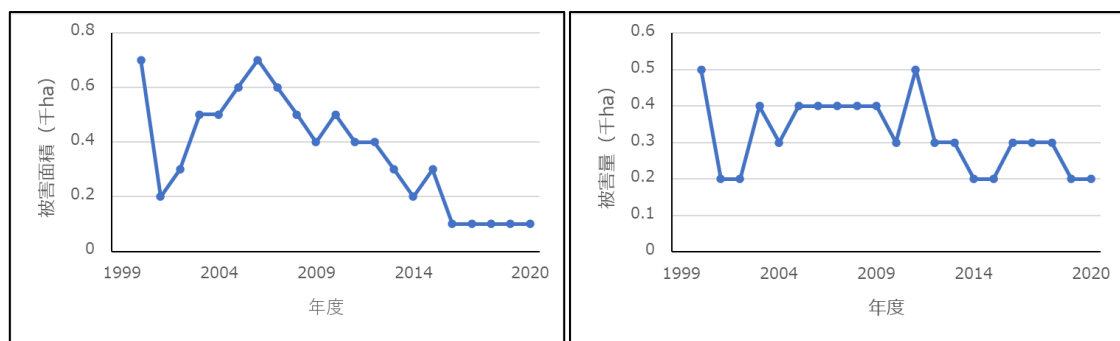
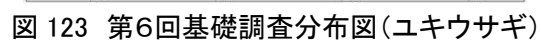


図 122 ヌートリアによる農作物被害面積の推移(左)および農作物被害量の推移(右)

【レッドデータブック】

地方版： —

北海道に分布し、ほぼ全域から生息情報が得られている。分布域に大きな変化はない。



【捕獲状況】

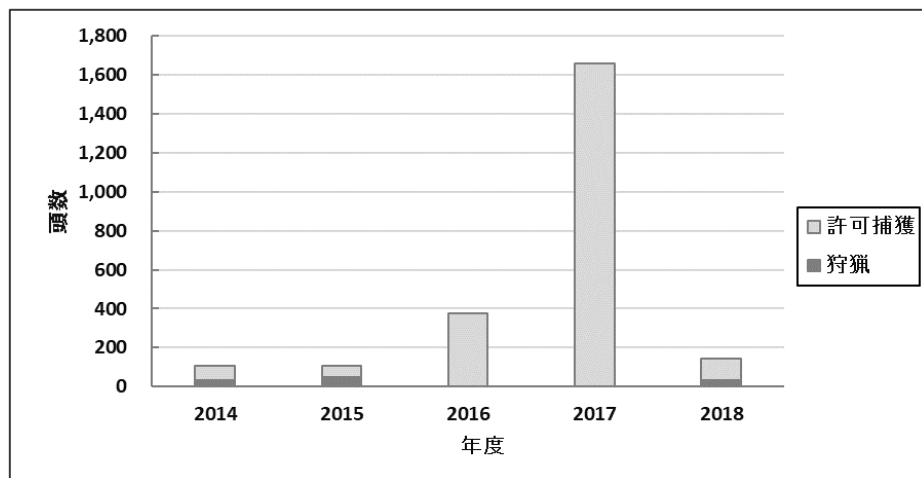


図 124 ユキウサギの捕獲数の推移

【被害状況】

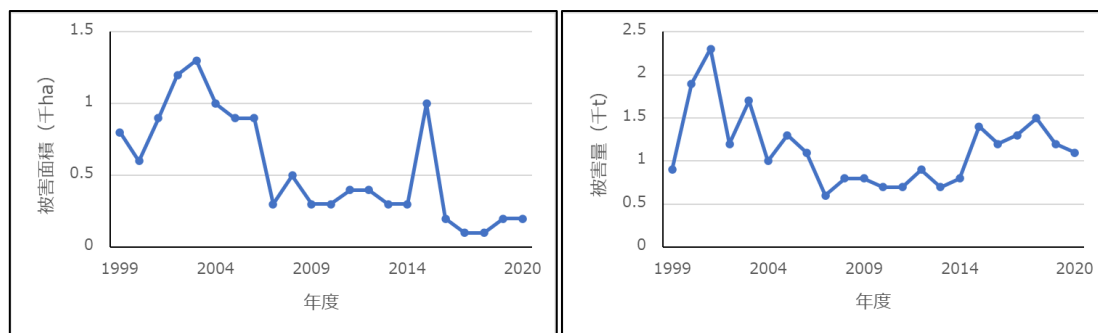


図 125 ウサギ類による農作物被害面積の推移(左)および農作物被害量の推移(右)

<20>ノウサギ (*Lepus brachyurus*)

【レッドデータブック】

環境省：NT（亜種サドノウサギ）

地方版：4 都県

表 29 地方版レッドデータブック掲載状況

カテゴリ	掲載県	県名
絶滅(EX)または野生絶滅(EW)		
絶滅危惧ⅠA・ⅠB類(CR, EN)		
絶滅危惧Ⅱ類(VU)	1	東京都
準絶滅危惧(NT)	2	新潟（亜種サドノウサギ）、愛知
情報不足(DD)		
絶滅のおそれのある地域個体群(LP)		
その他県独自カテゴリ	1	山梨（要注目）

【生息状況等】

本州、四国、九州の他、いくつかの島嶼部で広く分布が確認されている。分布域に大きな変化はない。



図 126 第6回基礎調査分布図(ノウサギ)

【捕獲状況】

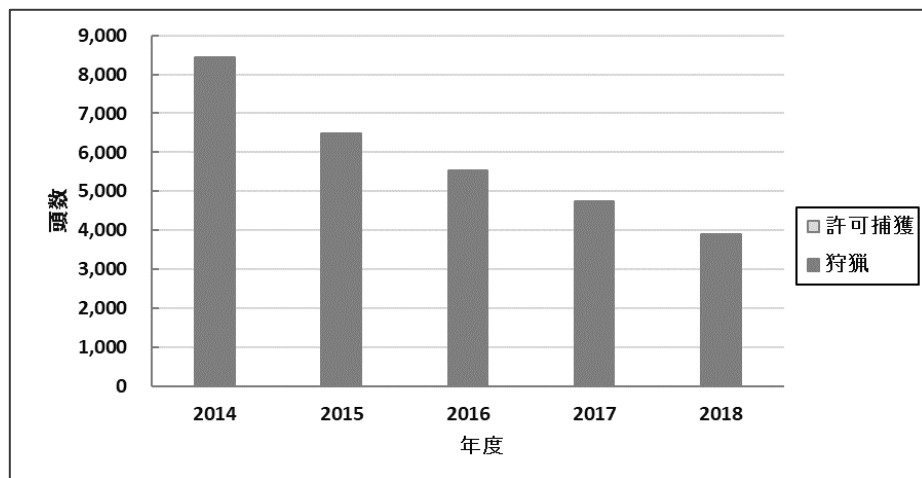


図 127 ノウサギの捕獲数の推移

【被害状況】

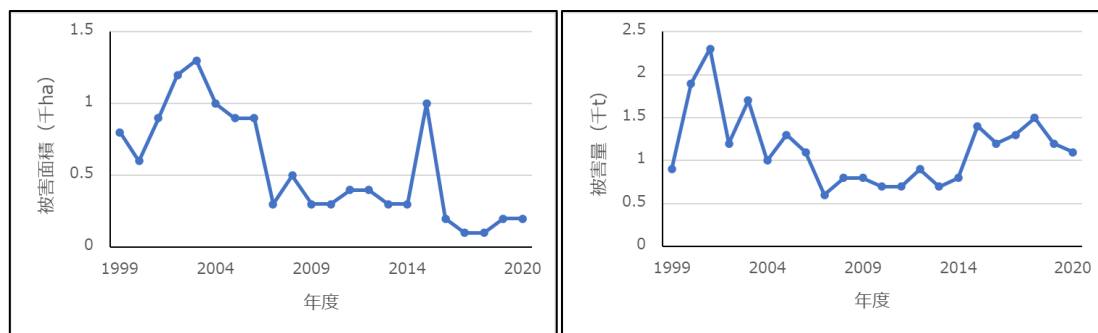


図 128 ウサギ類による農作物被害面積の推移(左)および農作物被害量の推移(右)

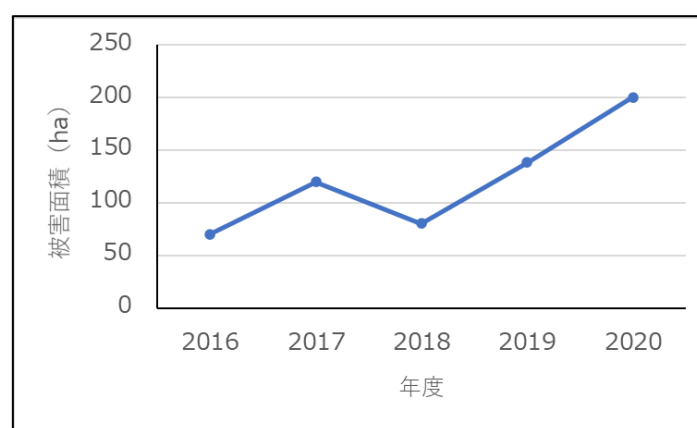


図 129 ノウサギによる森林被害面積の推移

表 30 資料5の作成のため使用した元データ

内容	使用した資料
レッドデータブック	・環境省および都道府県版レッドデータブック
分布状況	・環境省 第2回自然環境保全基礎調査 ・環境省 第3回自然環境保全基礎調査 ・環境省 第6回自然環境保全基礎調査 ・環境省 全国鳥類繁殖分布調査報告書 2016－2021 年 ・環境省 平成 29 年度要注意鳥獣（クマ類）生息分布調査報告書 ・環境省 平成 30 年度中大型哺乳類分布調査報告書 ・環境省 令和 2 年度全国のニホンジカ及びイノシシの生息分布調査 ・環境省 令和 3 年度タヌキ等中大型哺乳類分布調査
捕獲状況	・環境省 鳥獣関係統計
被害状況	・農林水産省 野生鳥獣による農作物被害状況 ・林野庁 野生鳥獣による森林被害状況 ・環境省 人身被害状況
資源利用状況	・農林水産省 野生鳥獣資源利用実態調査